

# 平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡

平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡

2005 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所







# 平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡

2005 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生き続けています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来 1200 年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じ広く公開することで、市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用を図っていきたいと願っています。

研究所では、平成 13 年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ規模の違いはありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび住宅建設工事に伴う平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

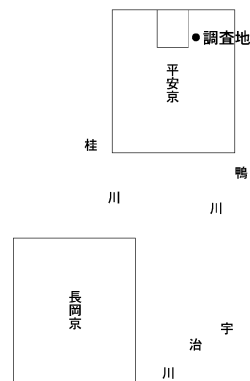
末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げる次第です。

平成 17 年 11 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 川 上 貢

# 例 言

- 1 遺 跡 名 平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡
- 2 調査所在地 京都市中京区竹屋町通油小路西入西竹屋町 511
- 3 委 託 者 イー・スペース 株式会社 代表取締役 井元一也
- 4 調査期間 2005 年 7 月 6 日～ 2005 年 9 月 28 日
- 5 調査面積 350 m<sup>2</sup>
- 6 調査担当者 平尾政幸・山口 真
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺 1：2,500）「聚楽廻」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系 VI（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 通し番号を付し、種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 種類別に図版順に番号を付した。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 15 遺物復元 村上 勉・出水みゆき
- 16 基準点測量 宮原健吾
- 17 本書作成 平尾政幸・山口 真
- 18 編集・調整 中村 敦・児玉光世・近藤章子
- 19 自然科学分析 株式会社古環境研究所
- 20 本書は、2001 年度から発刊してきた『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』を、今年度より書名変更したものである。



（調査地点図）



# 目 次

1. 調査経過	1
2. 遺 構	3
(1) 基本層序	3
(2) 平安時代以前の遺構	3
(3) 平安時代の遺構	10
(4) 平安時代以降の遺構	13
3. 遺 物	16
(1) 平安時代以前の遺物	16
(2) 平安時代の遺物	18
(3) 平安時代以降の遺物	27
(4) その他の遺物	31
4. ま と め	32
5. 付章 自然化学分析	34

# 図 版 目 次

図版 1	遺構	1	1 区全景 (西から)
		2	3 区全景 (西から)
図版 2	遺構	2	2 区全景 (北から)
図版 3	遺構	1	1 区井戸 SE01 (西から)
		2	1 区井戸 SE07 (北から)
図版 4	遺構	1	2 区川跡 SD100 (北から)
		2	2 区川跡 SD100 東壁断面
図版 5	遺構	1	2 区池 SG105D 洲浜 (南東から)
		2	2 区池 SG105A 洲浜 (北東から)
図版 6	遺構	1	2 区池 SG105 洲浜の重複状況
		2	池 SG105 洲浜部断面
図版 7	遺構	1	2 区築地 SA106・大炊御門大路路面 SF107 (北から)
		2	2 区大炊御門大路北側溝 SD108 (西から)
図版 8	遺構	1	2 区井戸 SE24 (西から)
		2	2 区土壌 SK88 (北から)

- 図版9 遺物 縄文土器  
 図版10 遺物 弥生土器、SK88・SG105 出土土器  
 図版11 遺物 SG105・SE07 出土土器  
 図版12 遺物 SE07 出土土器  
 図版13 遺物 SK34・SE11 出土土器  
 図版14 遺物 石製品・木製品・金属製品

## 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：500）	2
図3	調査前全景（南から）	2
図4	1区作業風景（西から）	2
図5-1	1区遺構実測図（平面1：200、断面1：100）	4
図5-2	1区層名	5
図6-1	2区東壁断面図-1（1：50）	6
図6-2	2区東壁断面図-2（1：50）	7
図7	2区遺構平面図（1：100）	8
図8	3区遺構実測図（1：50）	9
図9	SK88 実測図（1：20）	11
図10	池の変遷（1：200）	11
図11	礎石実測図（1：20）	12
図12	SE07 実測図（1：50）	13
図13	SE11 実測図（1：50）	13
図14	SE24 実測図（1：50）	14
図15	SE01 実測図（1：50）	15
図16	石刀実測図（1：4）	16
図17	石斧柄実測図（1：4）	16
図18	縄文土器拓影・実測図（1：4）	17
図19	弥生土器実測図（1：4）	18
図20	平安時代の瓦拓影・実測図1（1：4）	20
図21	平安時代の瓦拓影・実測図2（1：4）	21
図22	SD108 出土土馬実測図（1：4）	22

図 23	SD108 出土土器実測図 (1 : 4)	23
図 24	SK83・SK88 出土土器実測図 (1 : 4)	24
図 25	SG105 出土土器実測図 (1 : 4)	25
図 26	丸軋実測図 (1 : 2)	25
図 27	SK16 出土土器実測図 (1 : 4)	26
図 28	SE07 出土土器実測図 (1 : 4)	27
図 29	SK34 出土土器実測図 (1 : 4)	28
図 30	SE11 出土土器実測図 (1 : 4)	28
図 31	その他の遺物拓影・実測図 (1 : 4、金 2～5 のみ 1 : 2)	30
図 32	高陽院関係の遺構配置略図	32
図 33	植物珪酸体ダイアグラム	36
図 34	花粉ダイアグラム	39
図 35	主要珪藻ダイアグラム	43
図 36	植物珪酸体顕微鏡写真	45
図 37	花粉顕微鏡写真	46
図 38	珪藻顕微鏡写真	47

## 表 目 次

表 1	遺構概要表	3
表 2	SD108 出土土器の構成	22
表 3	SG105 出土土器の構成	24
表 4	SK16 出土土器の構成	26
表 5	SE07 出土土器の構成	26
表 6	SE11 出土土器の構成	29
表 7	遺物概要表	29
表 8	植物珪酸体分析結果	36
表 9	花粉分析結果	38
表 10	珪藻分析結果	42

# 付 表 目 次

附表 1	SD100 下層出土繩文土器一覽表 .....	48
附表 2	SD100 上層出土弥生土器一覽表 .....	49
附表 3	SD108 出土土器一覽表 .....	50
附表 4	SK83 出土土器一覽表 .....	52
附表 5	SK88 出土土器一覽表 .....	52
附表 6	SG105 出土土器一覽表 .....	53
附表 7	SK16 出土土器一覽表 .....	55
附表 8	SE07 出土土器一覽表 .....	58
附表 9	SK34 出土土器一覽表 .....	60
附表 10	SE11 出土土器一覽表 .....	60

# 平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡

## 1. 調査経過

調査地は京都市中京区竹屋町通油小路西入西竹屋町に所在し、竹屋町通の北側に接するマンション建設予定地である。平安京の条坊では左京二条二坊十町に位置し、藤原頼通の邸宅「高陽院」の南西部に該当する。また、調査対象地の南端付近では大炊御門大路の北築地・側溝の検出が予想された。

「高陽院」に関する発掘調査はこれまでに7度実施しているが、いずれの調査でも池跡や景石など庭園に関する遺構や建物の一部を検出しており、遺構の残存状況が非常に良好であることが確認されている。

今回の調査に先立って当地で実施した京都市埋蔵文化財調査センターによる試掘調査において現表土下約2mで池跡の堆積土と見られる泥土層や礫敷き状の遺構が検出されたため、発掘調査を実施することになった。

敷地の形状や残土置き場を考慮し、当初2箇所の調査区（1区・2区）を設定した。1区は京

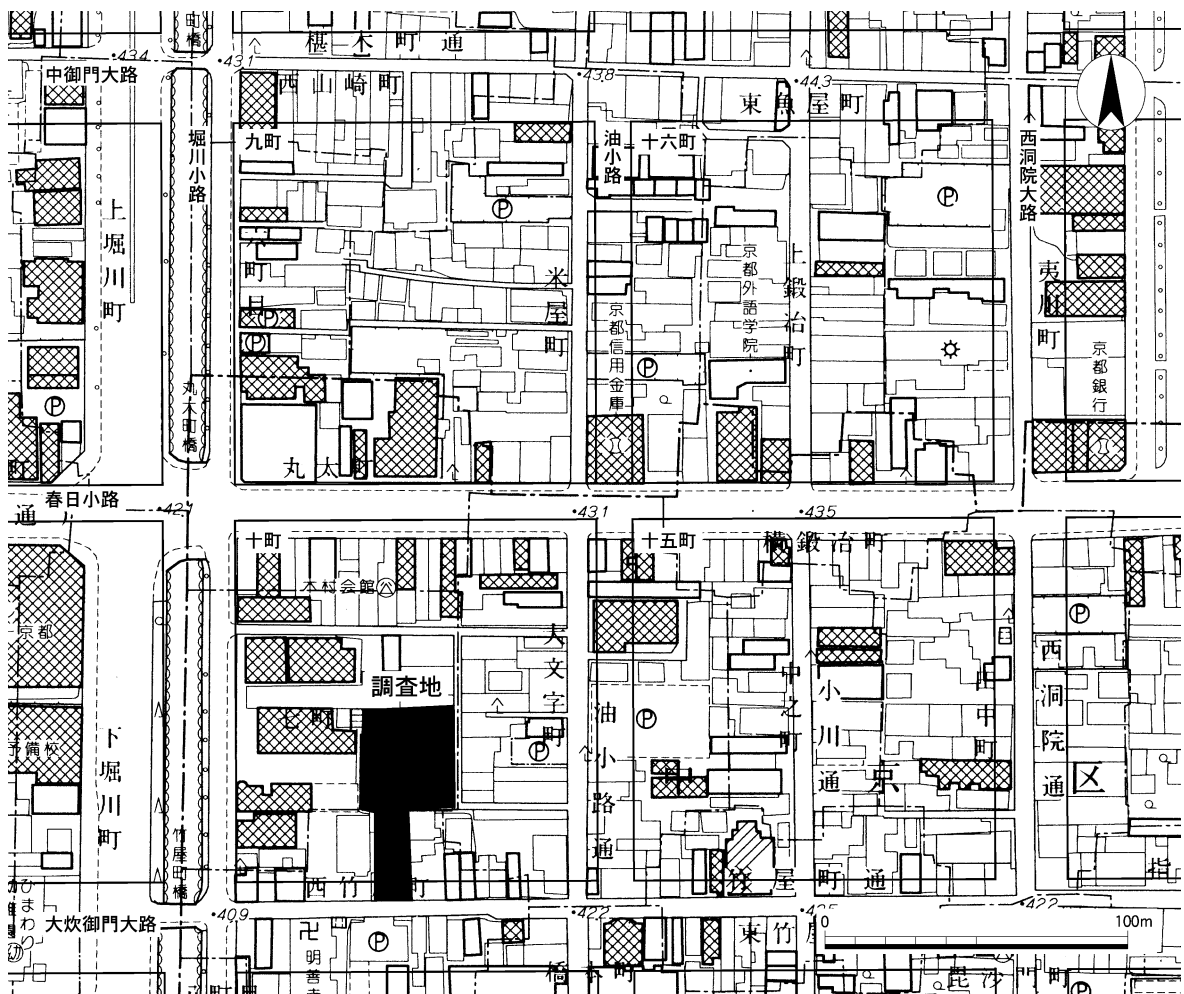


図1 調査位置図（1：2,500）

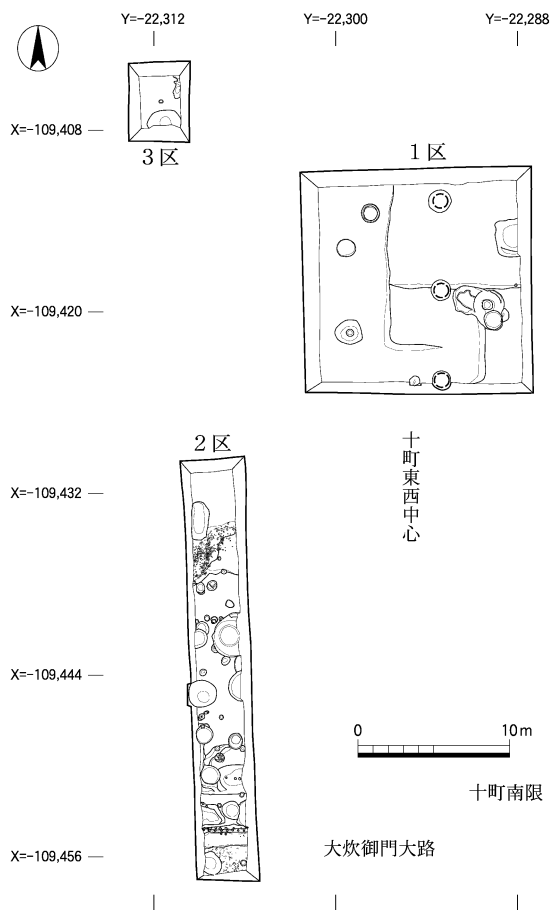


図2 調査区配置図（1：500）

土器を含む川や湿地を検出し、高陽院の池がこの川や湿地跡を利用して造られていたことが確認できた。また、各調査区で、高陽院廃絶後の鎌倉・室町・江戸時代の土壌や井戸なども検出した。なお、2区で洲浜の重なりを確認した時点で現地説明会を実施し、市民ほか多数の方々の参加を得た。

都市埋蔵文化財調査センターによる試掘調査で池跡が確認された敷地北部寄り、2区は高陽院の南限である大炊御門大路関連の遺構を想定し、敷地南側に設定した。さらに調査進行中に開発範囲が当初の予定地の北側に延長される状況が生じたため、その範囲の一部に3区を追加設定した。

1区の結果、この調査区全体が池跡に当たることが判明したため、2区の範囲を大炊御門大路関連に留めず、池の南岸の検出を含め北側に延長した。また3区は今回の調査地の北西部で実施した調査で池の西岸を検出していることや1区の結果から池内であることが想定されたため、その確認を目的とした。

これら3箇所の調査の結果、高陽院の池跡とその南岸、大炊御門大路北側溝、築地、内溝、整地層などを検出し、池の南岸では4度の改修を確認した。さらに下層に縄文土器・弥生



図3 調査前全景（南から）



図4 1区作業風景（西から）

## 2. 遺 構

### (1) 基本層序

池跡を検出した1・3区では、地表下0.4～0.5 mまでの現代層以下1.0～1.3 mまでが江戸時代後期の土層で、江戸時代前期の土層は明確に検出できなかった。地表下1.4～1.5 m以下は礫を多量に含んだ池の埋土で、2.0～2.2 mの池底部には一部砂層やシルト層が薄く堆積していた。中世の遺構は、いずれもこの池の埋土上面で検出した。

陸部に当たる2区では、池の岸部を検出した北端部を除き、現代層・江戸時代の土層の下部、表土下1.2 m前後で平安時代前期から後期の整地層を検出した。これらの整地は調査区北部に存在する縄文時代から弥生時代の流路あるいは湿地跡を埋め立てたもので、数層の薄い堆積で構成されている。特に2区北部では池の岸部が4度のわたり改修を受けていることが確認できた。これらの改修によっても岸部の標高にはほとんど変化はなく、池を北方に縮小させながら洲浜の改変が行われたようである。また、2区南部では表土下約1.6 mで大炊御門大路の路面を検出したが、このほぼ直上まで近世の土層が堆積していた。

### (2) 平安時代以前の遺構

SD100 (図版4) 2区北部および1区南西隅で検出した川跡。どちらの調査区でも左岸の一部を検出したのみで、川幅など規模は不明である。両調査区での検出位置からみて北から南西へと流れの方向を変化させる部分と考えられる。2区で検出した箇所では肩部から北に向かってなだらかに下がり、最も深い部分で約0.9 mの深さを確認した。堆積は底部から約0.3 mに縄文土器を含む砂礫と腐植土の互層、その上部に0.5～0.6 mのまったく遺物を含まない暗青灰色シルト層、最上部は弥生土器を含む黒色の粘質土層である。この最上層は南岸付近でやや厚く堆積しており、その一部が南に流れ出したようにSD101に連続している。中層の無遺物シルト層は砂粒を含まず、

表1 遺構概要表

時 代	遺 構
縄文時代	川跡
弥生時代	川跡、湿地
平安時代前期	大炊御門大路 (路面・北側溝・築地)、内溝、土壇
平安時代後期	池 (高陽院園池)、整地層
鎌倉時代	土壇
室町時代前期	井戸
室町時代後期	井戸、土壇
江戸時代	井戸、土壇

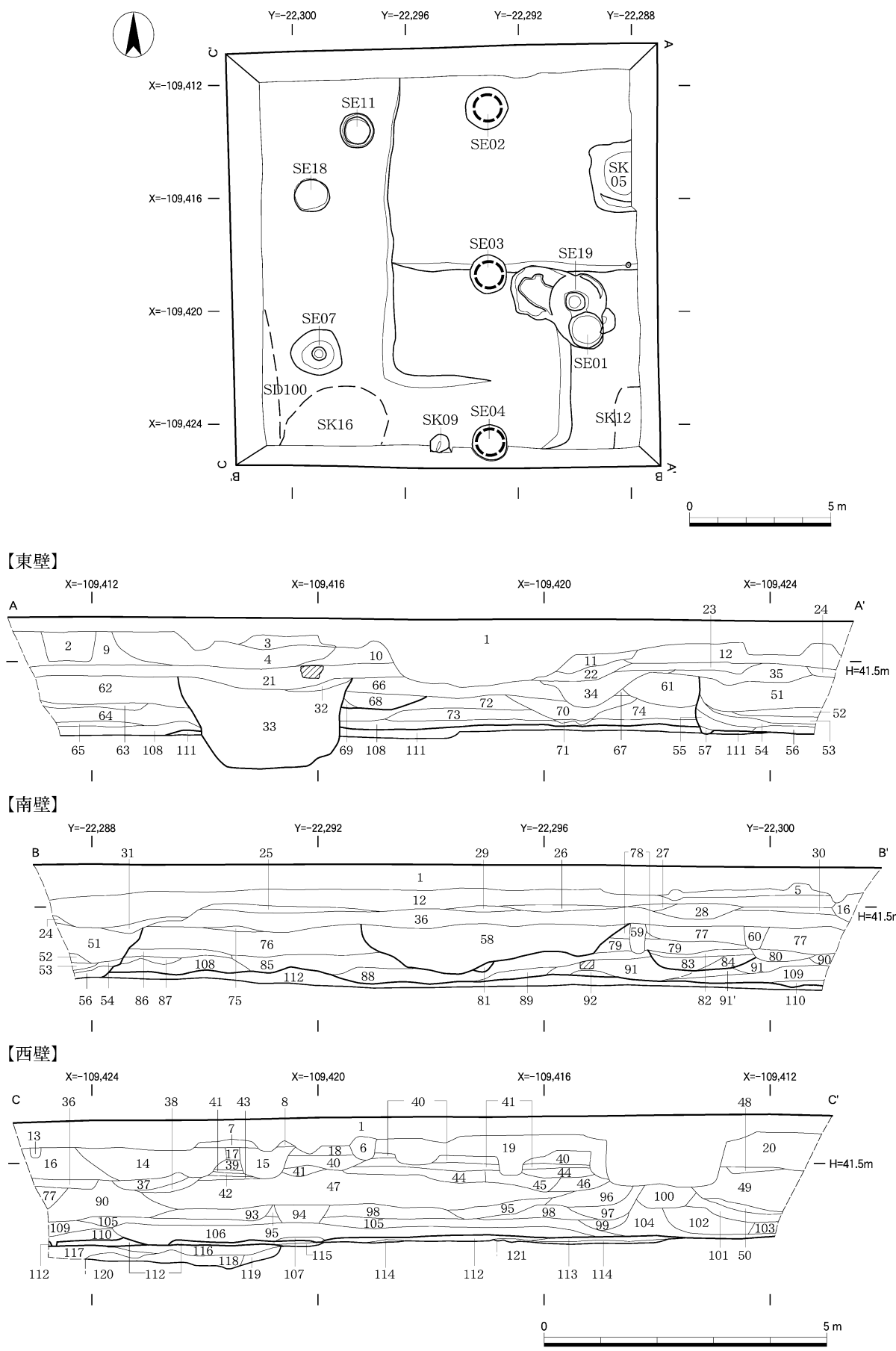


图 5-1 1区遺構実測図 (平面 1 : 200、断面 1 : 100)



- |         |  |  |  |  |  |
|---------|--|--|--|--|--|
| 1       | 現代構丸   |  |  |  |  |
| 2       | 7.5YR3/2黒褐色砂泥 礫多量混                               |  |  |  |  |
| 3       | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 土師器・炭混                           |  |  |  |  |
| 4       | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 礫多量混 土師器・炭混                        |  |  |  |  |
| 5       | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 礫多量混 焼土多量混                          |  |  |  |  |
| 6       | 10YR3/2黒褐色砂泥 7.5YR5/6明褐色粘質土ブロック混                 |  |  |  |  |
| 7       | 10YR3/3暗褐色砂泥 灰・焼土混                               |  |  |  |  |
| 8       | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 焼土混                                |  |  |  |  |
| 9       | 7.5YR3/3暗褐色砂泥 礫・土師器・炭混                           |  |  |  |  |
| 10      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥ブロック・土師器・炭混      |  |  |  |  |
| 11      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥                                 |  |  |  |  |
| 12      | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 やや砂質 土師器混                           |  |  |  |  |
| 13      | 10YR3/3暗褐色砂泥 灰・焼土混                               |  |  |  |  |
| 14      | 10YR2/3暗褐色砂泥 灰・焼土多量混                             |  |  |  |  |
| 15      | 10YR3/3暗褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 16      | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 (焼土)                             |  |  |  |  |
| 17      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥                                 |  |  |  |  |
| 18      | 10YR3/3暗褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 19      | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 20      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 土師器・炭・焼土・漆喰混                    |  |  |  |  |
| 21      | 7.5YR3/4暗褐色砂泥 土師器・炭混                             |  |  |  |  |
| 22      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 土師器 炭混 大礫多量混 (底部に炭層有り)          |  |  |  |  |
| 23      | 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 やや砂質                               |  |  |  |  |
| 24      | 10YR4/3にぶい黄褐色焼土                                  |  |  |  |  |
| 25      | 10YR3/2黒褐色砂泥+10YR4/3にぶい黄褐色粘質土Mix                 |  |  |  |  |
| 26      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 灰・焼土混                           |  |  |  |  |
| 27      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 漆喰混                             |  |  |  |  |
| 28      | 10YR2/3黒褐色砂泥 灰・漆喰混                               |  |  |  |  |
| 29      | 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥                                    |  |  |  |  |
| 30      | 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土                                 |  |  |  |  |
| 31      | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥                                  |  |  |  |  |
| 32      | 10R4/3にぶい黄褐色砂泥 土師器混                              |  |  |  |  |
| 33      | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 大礫多量混 【SK05】                     |  |  |  |  |
| 34      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 10YR4/4褐色粘質土ブロック混               |  |  |  |  |
| 35      | 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 砂・礫多量混                           |  |  |  |  |
| 36      | 10YR3/2黒褐色砂泥                                     |  |  |  |  |
| 37      | 10YR2/3黒褐色砂泥 灰・焼土混                               |  |  |  |  |
| 38      | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 やや砂質                               |  |  |  |  |
| 39      | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥                                  |  |  |  |  |
| 40      | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥                                  |  |  |  |  |
| 41      | 10YR4/6褐色粘質土                                     |  |  |  |  |
| 42      | 10YR4/2灰黄褐色砂泥                                    |  |  |  |  |
| 43      | 10YR3/3暗褐色砂泥                                     |  |  |  |  |
| 44      | 10YR3/3暗褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 45      | 10YR3/3暗褐色砂泥 礫多量混                                |  |  |  |  |
| 46      | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 土師器・炭混                           |  |  |  |  |
| 47      | 10YR3/3暗褐色砂泥 礫混                                  |  |  |  |  |
| 48      | 10YR4/6褐色粘質土                                     |  |  |  |  |
| 49      | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 土師器・炭混                             |  |  |  |  |
| 50      | 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土+10YR4/2灰黄褐色砂泥 まだらに混じる           |  |  |  |  |
| 51      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 やや砂質 炭・焼土混                      |  |  |  |  |
| 52      | 10YR4/4褐色砂泥+10YR5/6黄褐色粘質土 まだらに混じる                |  |  |  |  |
| 53      | 10YR3/1黒褐色砂泥 やや粘質 炭多量混                           |  |  |  |  |
| 54      | 2.5Y3/2黒褐色砂泥+2.5Y5/3黄褐色粘質土Mix                    |  |  |  |  |
| 55      | 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 やや粘質                               |  |  |  |  |
| 56      | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 やや粘質                                |  |  |  |  |
| 57      | 2.5Y3/2黒褐色粘質土                                    |  |  |  |  |
| 58      | 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土<br>ブロック混 【SK17】 |  |  |  |  |
| 59      | 10YR3/2黒褐色砂泥 炭混                                  |  |  |  |  |
| 60      | 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥                                    |  |  |  |  |
| 61      | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 やや粘質 土師器・炭混                         |  |  |  |  |
| 62      | 7.5YR3/3暗褐色砂泥                                    |  |  |  |  |
| 63      | 10YR4/4褐色砂泥 大礫多量混                                |  |  |  |  |
| 64      | 10YR3/3暗褐色砂泥 土師器混                                |  |  |  |  |
| 65      | 10YR4/2灰黄褐色粘質土                                   |  |  |  |  |
| 66      | 10YR3/3暗褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 67      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥                                 |  |  |  |  |
| 68~69   | 【SK13】   |  |  |  |  |
| 68      | 10YR3/3暗褐色砂泥 土師器・炭多量混                            |  |  |  |  |
| 69      | 10YR4/2灰黄褐色砂泥                                    |  |  |  |  |
| 70      | 10R3/2黒褐色砂泥 土師器・炭混                               |  |  |  |  |
| 71      | 10YR3/2黒褐色砂泥 やや粘質 大礫多量混                          |  |  |  |  |
| 72      | 10YR3/3暗褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 73      | 7.5YR3/4暗褐色砂泥 土器片混                               |  |  |  |  |
| 74      | 10YR2/2黒褐色砂泥 大礫多量混                               |  |  |  |  |
| 75      | 10YR4/2灰黄褐色砂泥                                    |  |  |  |  |
| 76      | 10YR3/2黒褐色砂泥 土師器・炭少量混                            |  |  |  |  |
| 77      | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥                                  |  |  |  |  |
| 78      | 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥                                  |  |  |  |  |
| 79      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 土師器・炭混                          |  |  |  |  |
| 80      | 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥                                    |  |  |  |  |
| 81      | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 82~84   | 【SK08】   |  |  |  |  |
| 82      | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 83      | 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 土師器・炭多量混                           |  |  |  |  |
| 84      | 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 やや粘質                               |  |  |  |  |
| 85      | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 86      | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 土師器混                               |  |  |  |  |
| 87      | 10YR3/3暗褐色砂泥                                     |  |  |  |  |
| 88      | 7.5YR4/3褐色砂泥 大礫混+2.5Y3/2黒褐色砂泥Mix                 |  |  |  |  |
| 89      | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 やや粘質                                |  |  |  |  |
| 90      | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 大礫多量混                               |  |  |  |  |
| 91~92   | 【SK16】   |  |  |  |  |
| 91      | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥                                 |  |  |  |  |
| 91'     | 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥                                 |  |  |  |  |
| 92      | 2.5Y3/2黒褐色粘質土                                    |  |  |  |  |
| 93      | 10YR3/2黒褐色砂泥 礫混                                  |  |  |  |  |
| 94      | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 大礫多量混                              |  |  |  |  |
| 95      | 10YR3/3暗褐色砂泥                                     |  |  |  |  |
| 96      | 10YR3/3暗褐色砂泥 固く締まる 土師器・炭混                        |  |  |  |  |
| 97      | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 礫混                                 |  |  |  |  |
| 98      | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 大礫混                                |  |  |  |  |
| 99      | 10YR2/3黒褐色砂泥                                     |  |  |  |  |
| 100     | 10YR2/3黒褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 101     | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 土師器・炭混                              |  |  |  |  |
| 102     | 2.5Y3/2黒褐色砂泥                                     |  |  |  |  |
| 103     | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 やや砂質                                |  |  |  |  |
| 104     | 2.5Y3/2黒褐色砂泥 礫多量混                                |  |  |  |  |
| 105     | 7.5YR3/2黒褐色砂泥                                    |  |  |  |  |
| 106     | 10YR3/4暗褐色砂泥                                     |  |  |  |  |
| 107     | 2.5Y3/2黒褐色砂                                      |  |  |  |  |
| 108     | 10YR3/3暗褐色粘質土                                    |  |  |  |  |
| 109     | 2.5Y3/2黒褐色粘質土                                    |  |  |  |  |
| 110     | 2.5Y4/2暗灰黄色砂                                     |  |  |  |  |
| 111     | 7.5YR3/3暗褐色粘質土                                   |  |  |  |  |
| 112     | 10YR3/3暗褐色粘質土                                    |  |  |  |  |
| 113     | 2.5Y3/2黒褐色砂                                      |  |  |  |  |
| 114     | 10YR3/3暗褐色粘質土                                    |  |  |  |  |
| 115     | 7.5YR4/3褐色粘質土 小礫詰まる                              |  |  |  |  |
| 116~119 | 【SD100】  |  |  |  |  |
| 116     | 10YR3/4暗褐色粘質土                                    |  |  |  |  |
| 117     | 10YR3/2黒褐色粘土                                     |  |  |  |  |
| 118     | 10YR2/2黒褐色粘土                                     |  |  |  |  |
| 119     | 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土                                 |  |  |  |  |
| 120~121 | 【地山】   |  |  |  |  |
| 120     | 7.5YR4/4褐色砂泥                                     |  |  |  |  |
| 121     | 7.5YR4/4褐色粘土                                     |  |  |  |  |

図5-2 1区図名

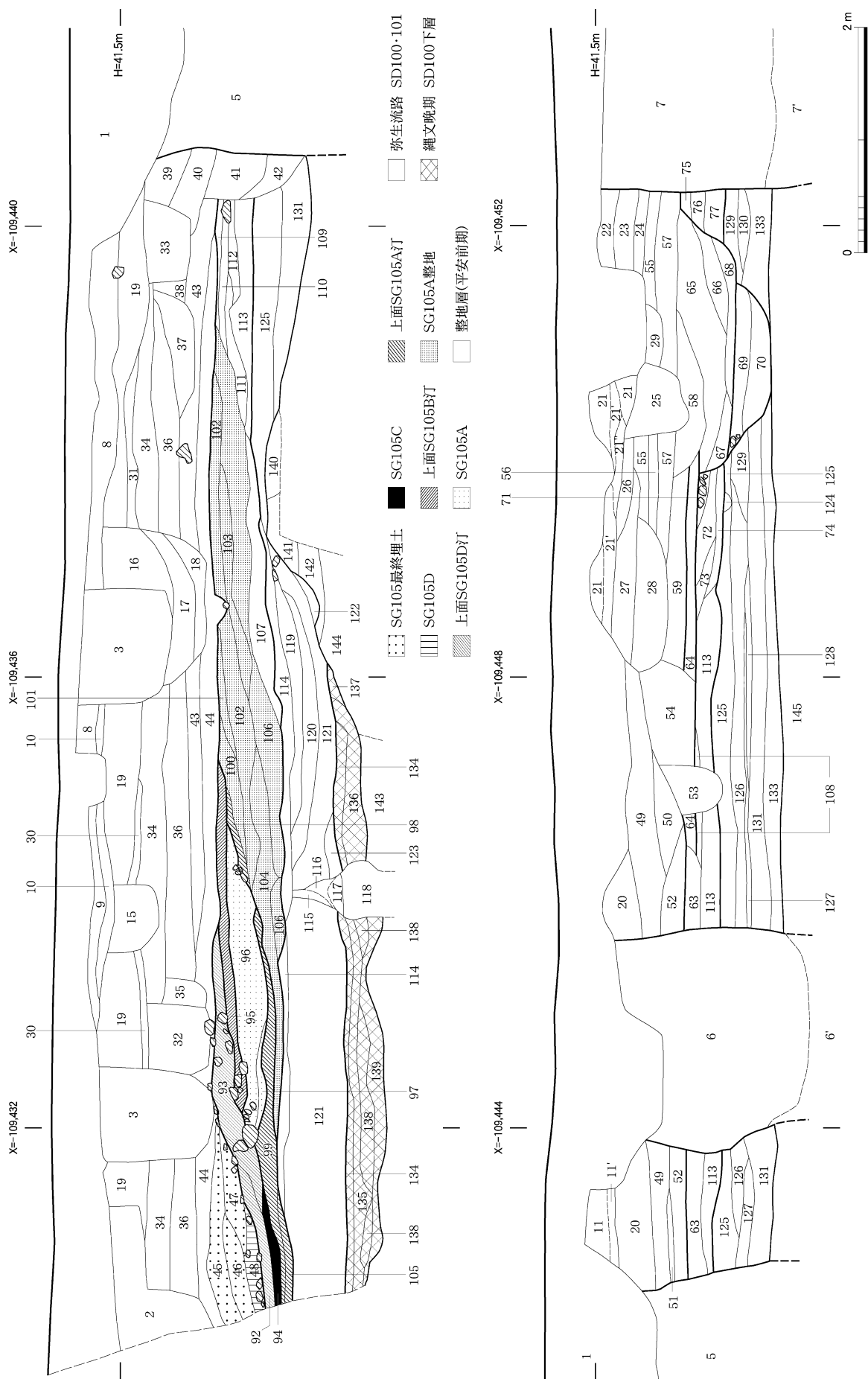
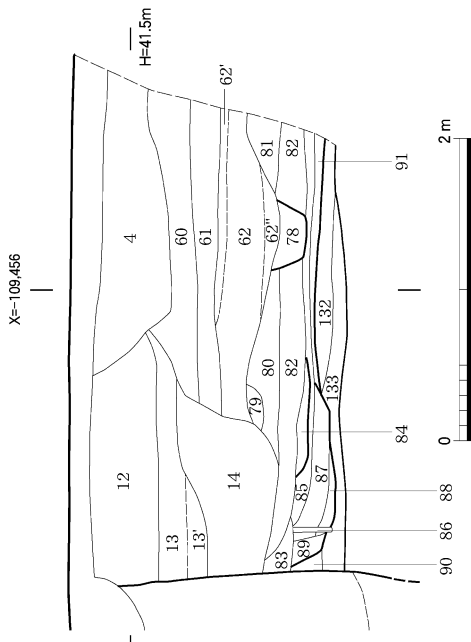


図6-1 2区東壁断面図-1 (1:50)

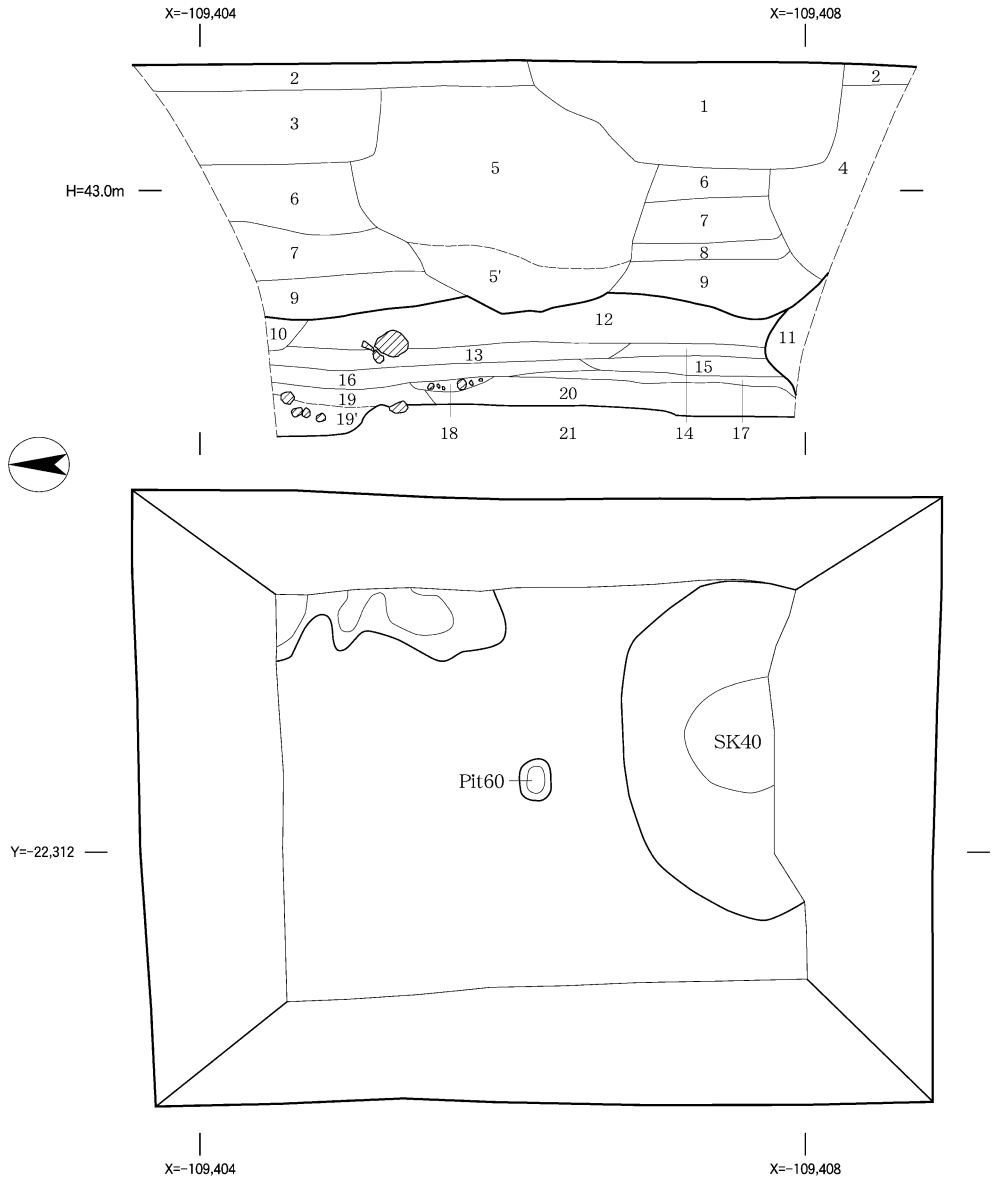


- 1 現代層 (煉瓦・コンクリート片・碎石等)
- 2 礫・残瓦
- 3 砂礫の版築 (土蔵基礎)
- 4 煉瓦淵
- 5 【SE25】
- 6 粘土・成層・2.5Y4/2暗灰黄色粘土が層状に堆積【SE37】
- 6' 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 礫多量混
- 7 10YR4/2灰黄褐色砂泥 漆喰・残瓦・礫混【SE21】
- 7 礫多量混
- 8 10YR5/6黄褐色砂泥 粘土多量混
- 9 10YR3/3暗褐色粘質土 黄色粘土混
- 10 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土 砂混
- 11 2.5Y5/4黄褐色砂泥
- 11' 層層
- 12 灰・粘土・漆喰が水平に堆積 (整地か?)
- 13 10YR4/6褐色粘質土
- 13' 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土
- 14 10YR3/3暗褐色砂泥 礫混
- 15 2.5Y3/2黒褐色砂泥 小礫・目礫混
- 16 10YR3/3暗褐色砂泥 黄色砂泥ブロック混
- 17 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 18 5Y3/2オリーブ黒色粘質土 成混
- 19 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥
- 20 2.5Y5/3黄褐色粘質土
- 21 2.5Y5/1褐色粘質土
- 21' 10YR4/1褐色砂泥
- 21'' 21+21'
- 22 2.5Y5/4黄褐色粘質土
- 23 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
- 24 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥
- 25 2.5Y5/3黄褐色粘質土+10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 26 10YR4/4褐色砂泥 炭混
- 27 10YR4/4褐色砂泥
- 28 7.5YR4/3褐色砂礫
- 29 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土 炭片多量混

- 30 10YR6/6明黄褐色粘質土
- 31 10YR5/2暗黄褐色砂泥 灰混
- 32 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫【SK32】
- 33 10YR4/3にぶい黄褐色砂礫
- 34 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 礫混
- 35 10YR4/4褐色砂質土
- 36 10YR3/3暗褐色砂泥
- 37 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 38 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 39 10YR2/3黒褐色砂泥 炭混
- 40 2.5Y3/1黒褐色砂泥 炭混
- 41 2.5Y4/1黄灰色砂泥
- 42 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
- 43 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥
- 44 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥
- 45 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 46 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 47 2.5Y4/1黄灰色砂泥
- 48 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥【池SG105D】
- 49 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥+拳大礫 (川原石)
- 50 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 51 2.5Y4/1黄灰色砂泥
- 52 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 53 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
- 54 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 礫混
- 55 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 礫混
- 56 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 57 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 58 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥
- 59 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 60 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 61 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥
- 62 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 62' 62より少し赤味強
- 62'' 2.5YR4/3にぶい赤褐色砂泥 やや粘質
- 63 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 64 2.5Y5/3黄褐色砂泥
- 65 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 (砂質)
- 66 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 67 2.5Y5/2暗灰黄色砂泥
- 68 10YR3/2黒褐色砂泥
- 69 10YR4/3黒褐色粘質土 礫混
- 70 10YR2/3黒褐色砂泥
- 71 2.5Y5/3黄褐色砂泥+拳大礫【SK58】
- 72 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
- 73 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 74 2.5Y5/1黄灰色砂泥
- 75 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
- 76 10YR4/2灰黄褐色粘質土
- 77 10YR5/2灰黄褐色粘質土
- 78 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 79 10YR5/2灰黄褐色砂泥 灰混
- 80 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 81 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
- 82 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 83 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 84 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥【側溝SD51】
- 85 2.5Y5/3黄褐色砂礫 固く縮まる【側溝SD51】
- 86 側溝SD108杭跡
- 87 10YR4/3にぶい黄褐色砂礫 土器多く含む【側溝SD108】
- 88 10YR3/3暗褐色粘質土 固く縮まる【側溝SD108護岸真込め】
- 89 10YR5/2灰黄褐色砂泥 (築地基部に似る)
- 90 10YR4/2灰黄褐色粘質土+砂礫 固く縮まる【路面SF107(旧)】
- 91 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 礫混【上面が池SG105D(旧)】
- 92 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 礫混【上面が池SG105D(旧)】
- 93 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 礫混【上面が池SG105D(旧)】
- 94 10YR4/1褐色粘質土【池SG105C】
- 95 2.5Y5/2暗灰黄色砂質土【上面が池SG105B(旧)】
- 96 10YR3/3暗褐色砂泥
- 97 10YR3/3暗褐色砂泥
- 98 2.5Y5/3黄褐色砂礫
- 99 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
- 100 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥
- 101 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥
- 102 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
- 103 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土
- 104 10YR4/4褐色粘質土
- 105 2.5Y4/2暗灰黄色シルト
- 106 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土
- 107 2.5Y3/1黒褐色粘質土
- 108 2.5Y5/3黄褐色砂泥 砂質
- 109 2.5Y4/1黄灰色砂泥
- 110 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂礫
- 111 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
- 112 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 炭混
- 113 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 均質 土器片 (平安前期) 混
- 114 5Y3/2オリーブ黒色粘質土 礫混【SD100上層】
- 115 5Y4/1灰色微砂
- 116 7.5Y3/1オリーブ黒色シルト
- 117 5Y3/1オリーブ黒色微砂
- 118 2.5Y4/3オリーブ褐色粗い砂礫
- 119 2.5Y3/1黒褐色微砂
- 120 2.5Y3/2黒褐色シルト【SD100上層】
- 121 2.5Y2/1黒色シルト (薄い層の重複)
- 122 2.5Y4/1黄灰色粘質土 5Y5/2灰オリーブ色シルトブロック混
- 123 5Y3/2オリーブ黒色シルト
- 124 10YR3/4暗褐色砂泥
- 125 10YR4/2灰黄褐色砂泥 均質 炭片少量混
- 126 10YR3/3暗褐色砂泥
- 127 10YR3/3暗褐色砂泥
- 128 10YR3/3暗褐色粘質土
- 129 2.5Y3/2黒褐色微砂
- 130 2.5Y3/2黒褐色砂 やや粗
- 131 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土 砂混
- 132 10YR2/3黒褐色粘質土
- 133 2.5Y3/3暗オリーブ褐色微砂 小礫混
- 134 7.5Y3/1オリーブ黒色粘質土
- 135 10Y5/1灰色砂礫
- 136 7.5Y4/1灰色砂 粘土混
- 137 7.5Y4/1灰色粘質土 砂混
- 138 10Y3/1オリーブ黒色砂 腐植土混
- 139 5Y3/1オリーブ黒色細砂
- 140 10YR4/4褐色粘質土 やや粘質【以下地山】
- 141 5Y4/2灰オリーブ色粘質土
- 142 10YR2/2黒褐色粘質土
- 143 粗い砂礫
- 144 5Y4/2灰オリーブ色砂泥 礫混
- 145 2.5Y5/3黄褐色砂泥

図6-2 2区東壁断面図-2 (1:50)





- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 1 現代攪乱                    | 12 10YR4/4褐色砂泥 固く締まる |
| 2 現代層 (碎石など)              | 13 10YR3/2黒褐色粘質土     |
| 3 2.5Y3/1黒褐色砂泥 瓦多量混       | 14 13に径1~5cmの礫混      |
| 4 10YR3/3暗褐色砂泥 土師器片・炭混    | 15 10YR4/2灰黄褐色砂      |
| 5 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 土師器・炭混 | 16 10YR4/2灰黄褐色粘質土    |
| 5' 5よりもやや粘質               | 17 10YR2/3黒褐色粘質土     |
| 6 10YR3/2黒褐色砂泥 土師器片・炭混    | 18 10YR3/3暗褐色泥砂 礫多量混 |
| 7 2.5Y3/2黒褐色砂泥            | 19 10YR4/2灰黄褐色砂+粗砂   |
| 8 10YR3/2黒褐色砂礫            | 19' 径5cm以上の礫混        |
| 9 10YR3/2黒褐色砂泥 土師器片・炭混    | 20 10YR3/2黒褐色粘質土     |
| 10 2.5Y3/2黒褐色砂泥 やや粘質      | 21 7.5YR4/4褐色砂泥 【地山】 |
| 11 10YR4/2灰黄褐色砂泥 【SK40】   |                      |



図8 3区遺構実測図 (1:50)

一見すれば均一に見えるが、所々に木の葉が水平に挟まる 1 mm 前後の非常に薄い層が無数に累積したもので、長期に亘る安定的な冠水状態で堆積した状況を示している。こうした堆積状況から、縄文時代の川跡がその後に沼地のような状態になり、最終的に弥生時代に湿地状あるいは浅い小河川になっていたことがうかがえる。

SD101 SD100 の最終段階に南岸から分流した小規模な自然流路。南北方向に緩やかに蛇行する。兩岸を確認できた箇所が無いので、正確な川幅は不明である。弥生土器が少量出土している。深さは 0.2 m 前後。堆積土は SD100 最上層と同様の黒色の粘質土層で、砂礫をほとんど含まない。堆積状況からみて流れはゆるやかか、あるいは湿地状になっていたものと思われる。

### (3) 平安時代の遺構

SA106 (図版 7-1) 2区南部で検出した約 0.4 m の東西方向の高まり。検出位置は大炊御門大路北築地の推定位置とほぼ一致する。固く締まった灰黄褐色の粘質土が水平に 3 層積み重ねられていることを確認した。この高まりの南北中央やや北寄りに小ピット (ピット 68) を 1 基検出した。高まりの幅は約 2 m で、犬行部との境界は不明瞭であるが、仮にこのピットを中心と想定し、『延喜式 京程』記載の築地幅 3 尺 (垣半) を取れば、残る SD108 までの約 0.7 m が犬行となるが、これでは『延喜式』の規定 (5 尺) の半分にも満たず、かなり少ない数値といえる。

SD108 (図版 7-2) SA106 に南接する東西方向の溝。大炊御門大路北側溝。溝幅は約 1.1 m。北肩は護岸の杭列が並び、ほぼ垂直に約 0.5 m 立ち上がるが、路面側の南肩は 0.1 ~ 0.2 m と浅く、形状もやや崩れている。堆積土は 9 世紀前半代の土器片を多量に含む砂礫層で、短期に埋没した状況を呈する。

SD51 SD108 上に整地された路面を切り込んで成立する東西溝。幅 0.7 ~ 0.8 m、深さ 0.1 m 程と小規模で、検出位置が SD108 より 0.6 m 南にずれるが、こちらの方が『延喜式』の規定に近い位置である。一時期の大炊御門大路北側溝と考えられる。11 世紀代の土器類が少量出土した。

SF107 (図版 7-1) 2区南端部で検出した礫と粘質土を突き固めた整地層。部分的に数層の重なりを認めた。大炊御門大路路面と思われる。下層では 9 世紀、上層では 11 世紀代の土器が出土し、10 世紀代のものをほとんど含まない。SD108 の南肩の状況と合わせ、この間に削平を受けている可能性がある。

SD57 SA106 北側に検出した東西溝。11 世紀代の遺物を含む上層と、9 ~ 10 世紀代の遺物を含む下層の 2 時期がある。上層の溝は南肩がそのまま SA106 の北側に連続し、幅が 2 m を超えるが、幅 1.5 m 程の下層の溝は、南肩が SA106 の基底部から約 0.35 m 北に位置する。検出位置からみて十町の内溝と考えられる。

SK88 (図 9、図版 8-2) 内溝 SD57 の北に検出した土壇。径は約 0.6 m、深さ約 0.1 m。蓋を伴う白色土器の短頸壺と拳大の礫が出土した。短頸壺は上部から押しつぶされたような状態で土壇底部に破片が散乱していたが、底部の破片は正位置で、ほとんど移動したようには見えなかった。この壺の蓋とも本来の高さを復元すると約 25 cm になり、この土壇の検出時の深さでは収まらない

いことになるが、蓋の一部の破片が付近の整地層からも出土しているため、後の整地の際に土壌上部が削平を受けた可能性がある。ある種の埋納遺構と思われるが、壺内からは特に遺物は検出できなかったため、埋納の目的は明らかではない。

SK83 2区南北中央付近に検出した径約0.6 m、深さ約0.3 mの小土壇。土壇内から瓦類とともに緑釉陶器の椀や唾壺が出土した。

SG105 (図10、図版5・6) 1・2・3区で検出した池。出土土器の年代観から高陽院の苑池と考えられる。1・3区では岸部は検出されず、2区北部で4時期の岸部を検出した。最古の岸部は、下層の弥生時代の流路上部に

堆積した平安時代前期の遺物包含層上に厚さ約0.5 mの整地を施し、陸側に小礫、池側に砂を用いた北東から南西の斜め方向の洲浜 (SG105A) が形成されていた。池へ向かう傾斜は非常に緩や

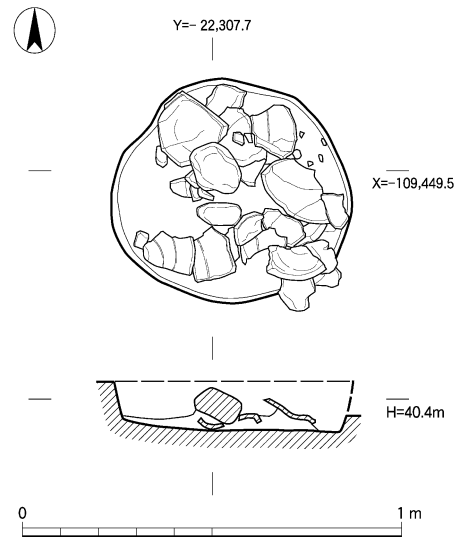


図9 SK88 実測図 (1:20)

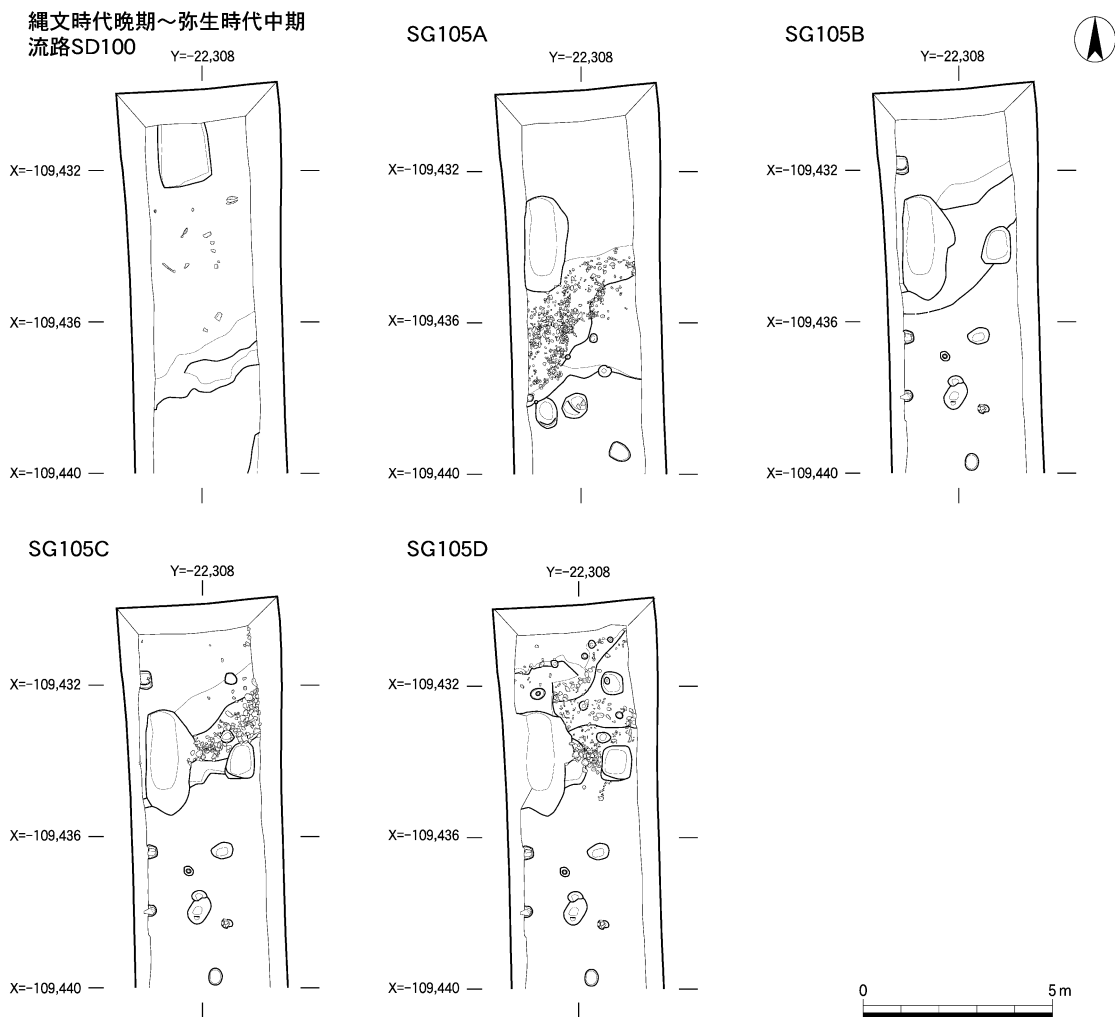


図10 池の変遷 (1:200)

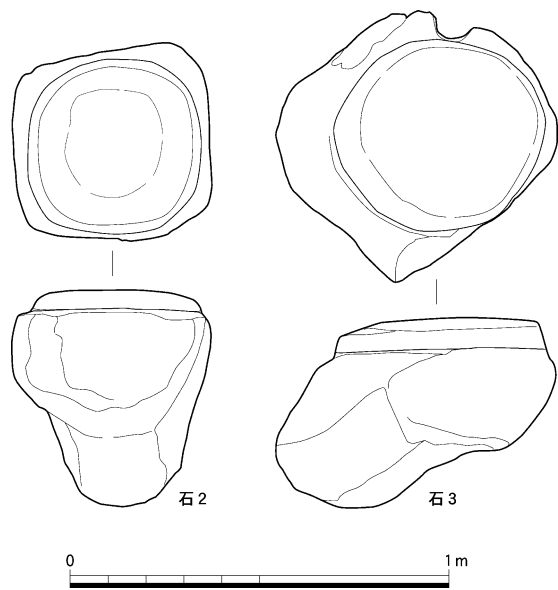


図 11 礎石実測図 (1 : 20)

かである。この洲浜の造成時の整地土から軒丸瓦が2点出土している。

次の段階の岸は SG105A の洲浜を黄褐色砂で埋め立て、約 2 m 北方に押し出す形で汀 (SG105B) が作られている。埋め立ての黄褐色砂には土師器皿が少量含まれていた。この汀は前段階の洲浜とは異なり、礫はほとんど使用されずなだらかな砂浜状の景観を呈していたようである。

さらに次の段階ではこの上部を暗黄灰色の砂質土で埋め立て肩口に礫を配し、陸部に向かって堅く締まった傾斜面を造っている (SG105C)。汀の位置はあまり移動してい

ない。この段階の池の堆積土とみられる汀近くの褐灰色シルト層から土師器皿が出土している。

最終段階の岸は、SG105C の岸上部に整地された礫の混じる黄褐色砂泥土上に、拳大前後の礫を敷いた洲浜 (SG105D) が造られていた。この結果、汀の位置はさらに 0.5 m ほど北方に移動している。礫敷きは粗く、岸の傾斜は今回検出した岸部のなかでは最も急である。この洲浜に対応する池の堆積土からも土師器皿が出土した。以上 4 時期の池岸は出土土器の年代観から、すべてが 11 世紀代中頃以前に属するもので、大半が藤原頼通期の高陽院にかかわるものであることが明らかになった。また、SG105A 下部で検出した弥生時代の流路上の平安時代前期の遺物包含層を頼通以前の整地と考えれば、さらに先行する池の存在が推測できる。

1・3 区では調査区全域が池にあたるが、ほとんどの箇所では池の堆積土は池底から 0.1 m 前後と非常に薄く、岸部のように明確な時期差は確認できなかった。なお、1 区の池底 4 箇所直線的な段を検出した。いずれも 0.1 ~ 0.05 m の低い段差である。調査区南東部が最も高く、北および西に一段下がり、さらに調査区西方では西にもう一段下がる。この底部形状については、池開削時の作業単位とも考えたが、その意味は現時点では不明である。池底の土質は概ね地山の黄褐色の粘質土層であるが、1 区の北西部では一部砂礫層となっており、そこでは池底に薄く粘質土を貼り付けた形跡が認められた。池の堆積土はほぼ均一な暗褐色粘質土だが、部分的にその下部に薄い砂層が堆積している箇所もあった。池は最終的に鎌倉時代の遺物を含む、拳大から 0.3 m 前後の礫が多量に混入した砂泥や砂礫層で埋められている。1 区ではこの埋土中から花崗岩製の礎石が 2 点出土した (図 11)。いずれも原位置をとどめるものではなく、池の埋め戻しの際に土砂とともに投入されたものと思われるが、近辺にこれらの礎石を使用していた建物の存在がうかがえる。

#### (4) 平安時代以降の遺構

SK16 1 区南西部で検出した土壇。平面略楕円形の浅い皿状を呈する。東西約 3.5 m、南肩部



は調査区南壁外に延びており、南北規模は不明である。堆積土は池埋土と異なり礫をほとんど含まず、土壌として掘り込まれたものではなく、池埋土上面の窪みの可能性も考えられる。鎌倉時代の土師器が多量に出土した。

SE19 1区東部で検出した石組み井戸。上部および南側の石組みの一部が江戸時代の井戸に切られていたため、調査中に形状を維持できず構造の詳細は不明である。遺物は少量だが、室町時代前期の土師器・青磁・鉄蓋などが出土した。

SE07（図12、図版3-2）1区南西部で検出した石組み井戸。掘形は径約1.8mの円形で、石組みの内径は約1.0m。石組みは底部から9段、約1.2m残存していた。底部には1段目の石組みの内側に一辺約0.7mの方形の板組が設置されていたが、部材はほとんど腐食しており木組みの状況は判明しなかった。石組みに使用されている石材は95%が砂岩・チャートなどの自然石で、切石はまったく含まれていない。石組み内からは土師器を主とする室町時代後半の土器類のほか銅銭が1点出土した。

SK34 2区北部で検出した土壌。南北約3.0m、東西幅は調査区外に延びているため不明。深さは約1.3mである。土壌内には炭片と灰を含む水分の多い層と茶灰色の砂泥層が交互に堆積しており、腐食して形状をとどめない木質の小片が多く含まれていた。遺物は多くないが、江戸時代初期の土器陶磁器類が出土した。

SE11（図13）1区北西部で検出した井戸。掘形は径約1.2mの円形、深さは検出面から約3.4m。井戸枠の構造は底部から約2.0mまで桶を積み上げたもので、掘形の規模からみてこれより上部も石組みではなく、桶組構造であったかと思われる。桶の径は0.9mで3段を確認した。遺物は多くないが、底部付近から江戸時代前期の土器陶磁器類の他、瓦・銅製小柄・木製の釣瓶などが出土した。

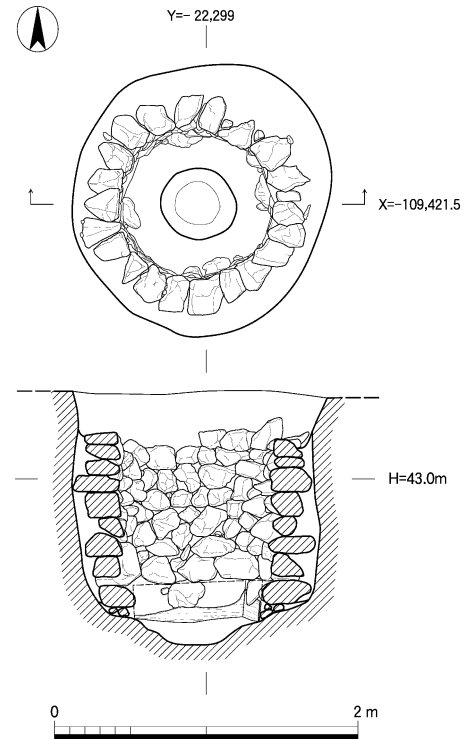


図12 SE07 実測図（1：50）

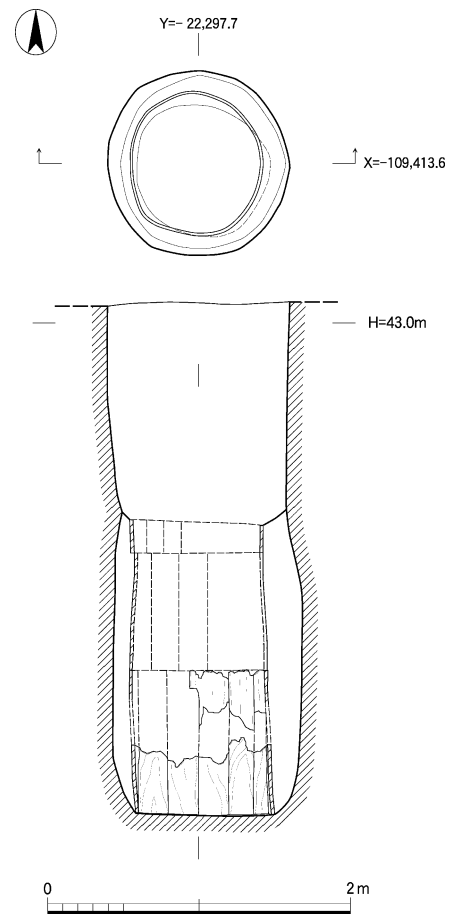


図13 SE11 実測図（1：50）

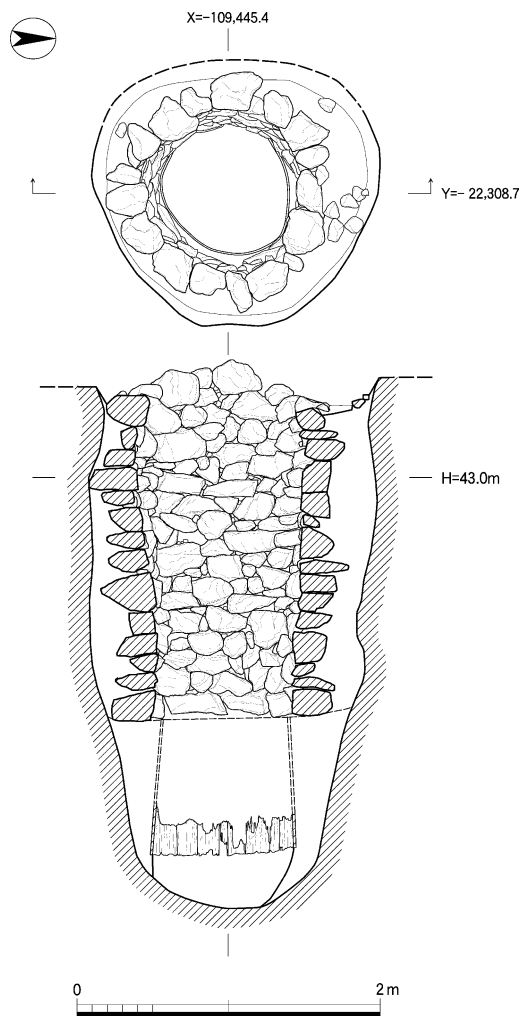


図 14 SE24 実測図 (1 : 50)

度の大きさの石材で単調な石垣が組まれているが、それより東側では大きめの石材を景石風に組みあげて複雑な景観を作っている。このような構造を持つ井戸の出土例は少なく評価は難しいが、現存している類例から推測すれば、単に生活用水を採取するために屋内に作られたものではなく、茶の湯などに供する水を取水するため、庭園施設の一部として構築されたものと思われる。

SE24 (図 14、図版 8-1) 2区中央部西寄りで見出した石組み井戸。径 1.8 m の掘形内に、上方では 1.2 m、下方では 0.9 m にすぼまる石組みを構築している。井戸の下部約 0.9 m は径 0.9 m の桶組である。石組みの石材はほとんどが花崗岩の切石である。遺物は少量で細片が多いが、江戸時代中期の特徴を持つ土器類が出土した。

SE01 (図 15、図版 3-1) 1区東寄りに見出した石組み井戸。井戸本体に向かって螺旋状に下る階段および石室状の石組みが付属する特異な構造である。井戸本体は内径約 0.8 m の石組みで、底部に径 0.75 m、高さ 0.7 m の桶を据えている。井戸の石組みに使用されている石材は 0.2 ~ 0.4 m の花崗岩が主体であるが、階段を下りきった部分にあたる北西部の最上段には長径 0.9 m の上面が平らな石材が用いられている。階段は右回りの螺旋状に下っており、いずれも上面が平坦な大きな石材が間隔をあけて据えられている。階段部の北面の西半約 1.5 m には、井戸と同程

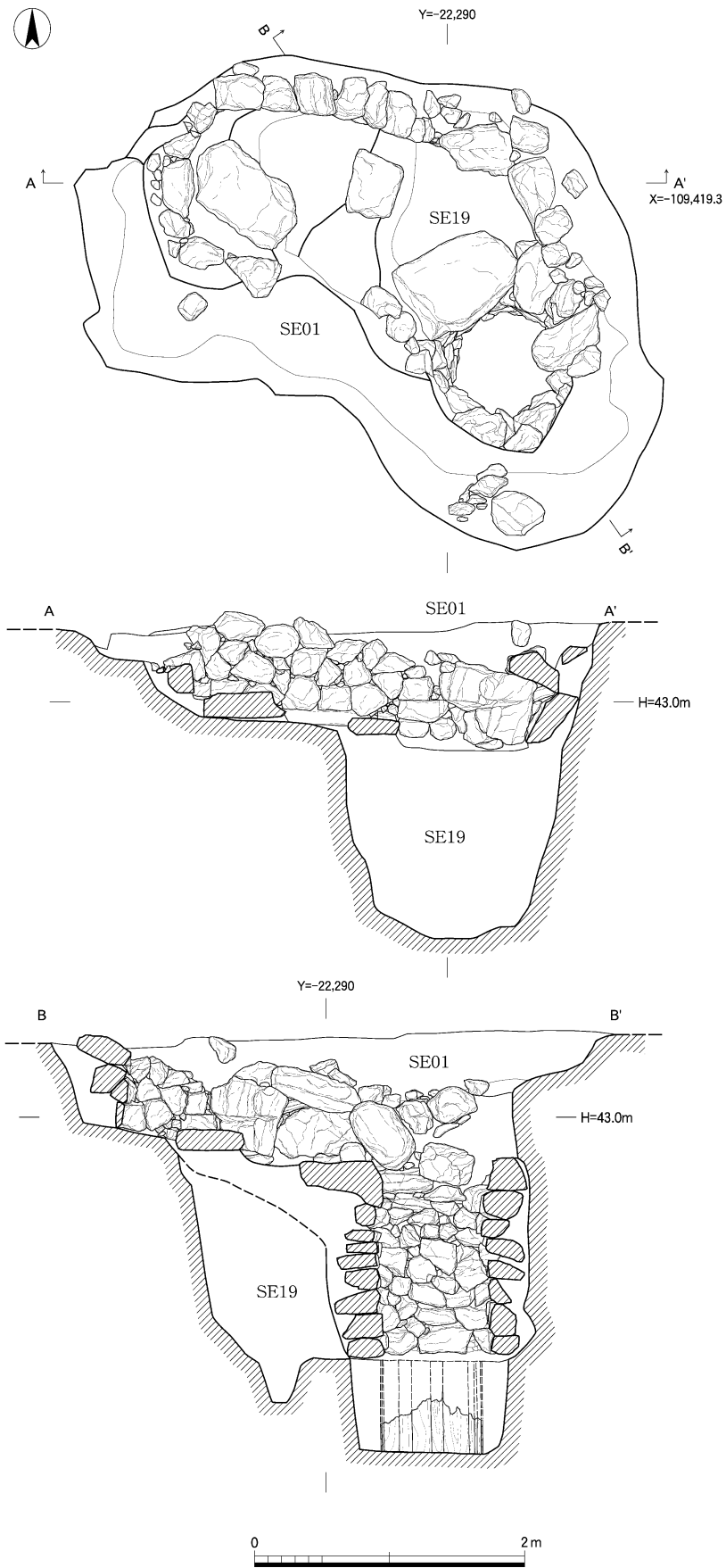


图 15 SE01 实测图 (1 : 50)

### 3. 遺物

#### (1) 平安時代以前の遺物

縄文時代の遺物（図16～18、図版9・14、付表1）

石刀・石斧の柄・縄文土器・植物種実などがある。いずれもSD100下層からの出土である。

石刀（石1）は先端から15.8cm残存している。暗青灰色の粘板岩製。峰部の先端近くに峰に直交した、刃部の先端から約6cmあたりに斜めに交差した十字の刻み目が施されている。調整は粗く、表面に研磨痕が目立ち、自然面も随所に残っている。

石斧柄（木1）は上下長40.6cm、前後長17.6cm。樹皮を剥いただけの自然木の枝分かれ部を利用し、幹を受け部に、枝を軸部に加工している。受け部は復元径8cm前後の幹を枝派生部を尾端に約18cmの長さに切断し、枝を残して木芯近くで半裁している。さらに上部を半裁面に直交す

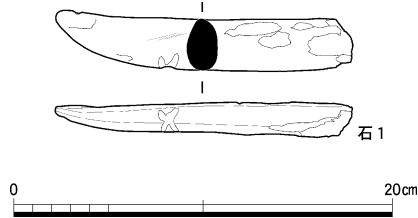


図16 石刀実測図（1：4）

る方向で、先端から13.5cm。深さ2cmほど切り取り、石斧の装着部を作り出している。軸部は、受け部の半裁に伴い、幹近くの一部が薄く削ぎ取られている以外は、ほとんど未加工である。使用されている素材は樹齢35年前後の針葉樹と思われるが、正確な樹種は同定できていない。

縄文土器（1～32）は破片数にして総数844片出土しているが、全体の形状がわかるものはない。調整など個々の特徴は付表に記し、ここでは土器群の概略を述べる。

土器片は流路から出土したものとしては遺存状態が良好で、表面が磨滅していないものも多い。大半が深鉢形土器で、そのほか浅鉢形土器が少量含まれている。深鉢形土器は外面の口縁部直下に凸帯を巡らせ、口縁上端と凸帯に刻み目を施したものが最も多く、他に刻み目のない細い凸帯をもつもの、凸帯がなく口縁上端に刻み目を施し、口縁下方に刻み目を巡らせたものが少量ある。深鉢形土器には口縁端部を上方に肥厚させるものや、口縁内面に凸帯を付けるもの、口縁内面に沈線、外面に凸帯を付けるものなどがある。粗製の土器が多いが、丁寧なミガキ調整を施したものも少量ある。これらの土器の特徴は、滋賀里IV期と共通する。

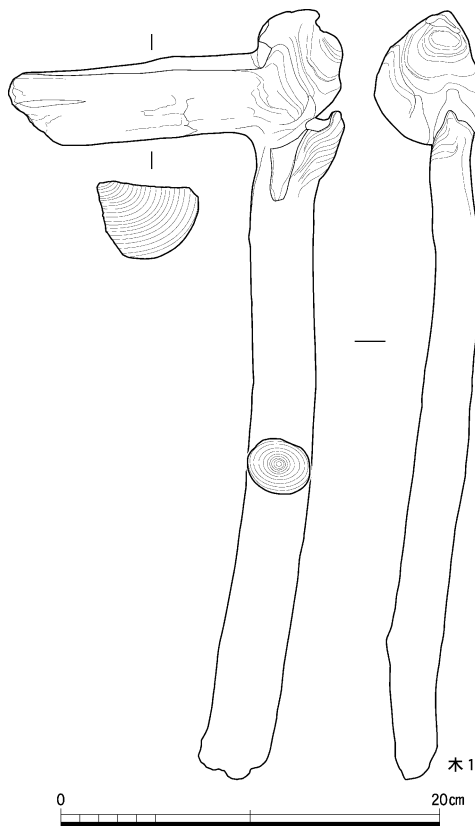


図17 石斧柄実測図（1：4）

植物種実については、トチ・オニグルミなど、大

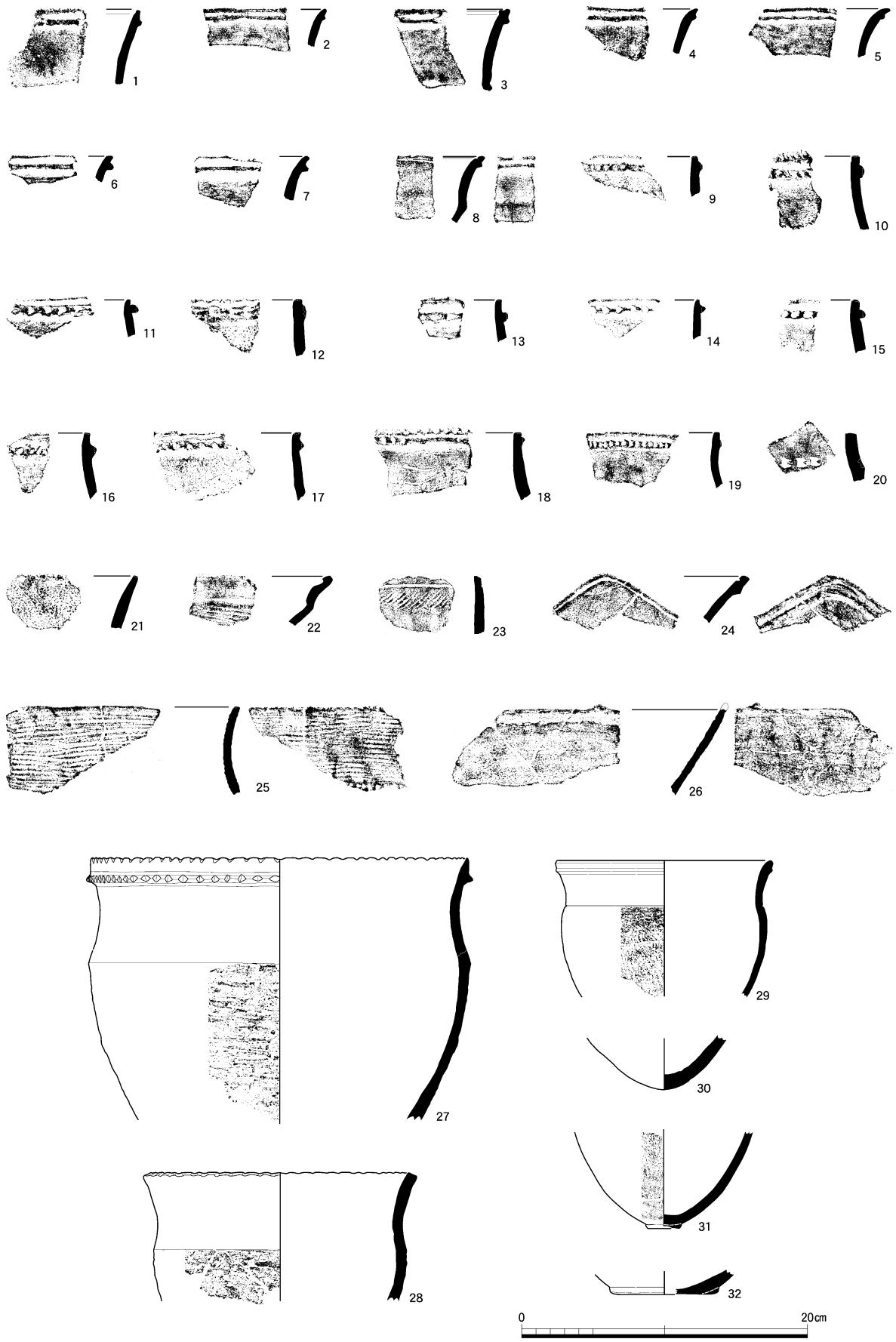


図 18 縄文土器拓影・実測図 (1 : 4)

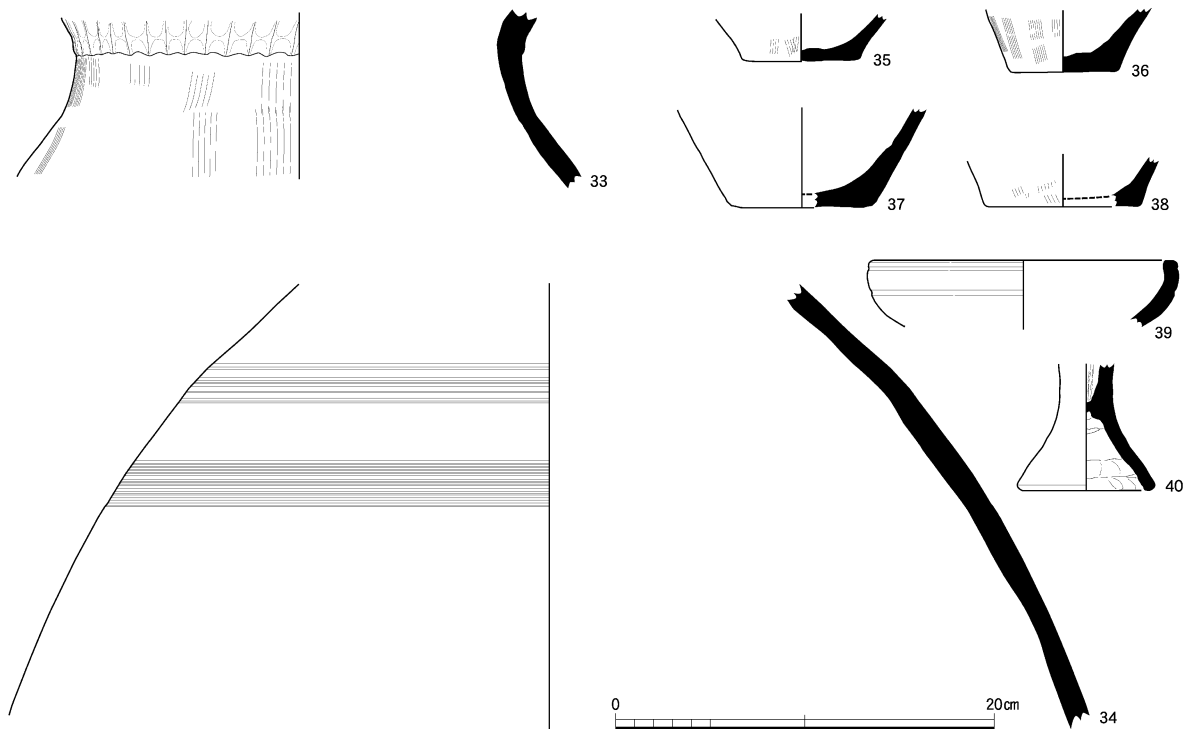


図 19 弥生土器実測図（1：4）

型のものを含め数種類が出土しているが、現在同定中であり、詳細は今後委ねる。

弥生時代の遺物（図 19、図版 10、付表 2）

SD100 上層および SD101 から弥生土器が出土している。SD100 から 178 片、SD101 からは 38 片と出土量は少なく、一部を除けば小片が多いが、櫛描文や凹線文の特徴から中期に属するものである。器形には壺・甕・高杯などがある。ここでは SD100 上層出土土器のうち計測可能なもの

の（33～40）を掲載しておく。

## （2）平安時代の遺物

### 1）瓦類

軒丸瓦 14 点・軒平瓦 15 点のほか平瓦・丸瓦がある。ここでは軒瓦について概説する。

軒丸瓦（図 20）

瓦 1 重圏文軒丸瓦 周縁と中心部が欠失しているため型式は不明。焼成はゆるく、表面が磨滅している。2 区江戸時代土壌 SK59 出土。

瓦 2 蓮華文軒丸瓦 中房の界線はなく、蓮子は 1 + 8。花卉とその輪郭線は肉厚である。瓦当裏面に布目痕が残る。『平安京古瓦図録』<sup>1)</sup>（以下『古瓦』）86 と同。SG105 埋土出土。平安時代前期。

瓦 3 蓮華文軒丸瓦 復弁の花卉外側に二重圏線と珠文が巡る。焼成が甘く磨滅が著しいため文様の細部は不明。2 区前期整地層出土。平安時代前期か。

瓦4 蓮華文軒丸瓦 花卉は単弁八葉で圏線の巡る中房に1+8の蓮子を配する。裏面の丸瓦部から瓦当にかけて布目が付き、中央付近に輪状の凸線が巡る。焼成が甘く軟質で砂粒が目立つ。『古瓦』131と同範。SG105埋土出土。平安時代後期。

瓦5 蓮華文軒丸瓦 中房がやや盛り上がり、圏線はない。蓮弁は単弁で幅が広く長さは短い。花卉外周に圏線を配し、珠文はない。外周端と側面および裏面外縁をヘラケズリ調整する。青灰色を呈し、硬質に焼き上がっている。SG105埋土出土。平安時代後期。

瓦6 巴文軒丸瓦 左巻き巴文で、珠文はない。瓦当裏面にオサエ痕が残り、周縁はナデ調整。長石、石英粒を多く含む。SK08(室町時代土壙)出土。平安時代後期。

瓦7・8 蓮華文軒丸瓦 同範である。圏線で画された中房に『米』を配する。花卉は単弁十二葉で、形状は不揃いである。蓮弁外周に圏線が巡るが、瓦当面から範がはみ出し全周しない。瓦当裏面に布目痕が残る。2点ともSG105A造成時の洲浜整地層下部から出土。池田瓦窯<sup>2)</sup>出土瓦と同範。平安時代中期。

瓦9 巴文軒丸瓦 巴文は右回りで珠文はない。周縁および瓦当裏面はナデ調整。焼成は軟質。SG105埋土。平安時代後期。

瓦10・11 巴文軒丸瓦 右巻き三巴文の周囲に16個の珠文が巡る。珠文の大きさは一定しない。瓦当径に対して文様は小さく、周縁が広い。同範で、焼成も両者とも軟質である。SG105埋土出土。平安時代後期。

瓦12 巴文軒丸瓦 巴文は右回りで珠文はない。周縁および瓦当裏面はナデ調整。砂粒を多く含むが、焼成は硬質。SG105埋土出土。平安時代後期。

瓦13 蓮華文軒丸瓦 復弁で弁を細い凸線で表す。小片のため詳細は不明であるが、栗栖野瓦窯の製品に類例がある。SX16(鎌倉時代土壙)出土。平安時代後期。

瓦14 蓮華文軒丸瓦 復弁で、花卉外側に二重の圏線間に珠文を密に配する。小片のため詳細は不明である。SX16(鎌倉時代土壙)出土。平安時代後期。

#### 軒平瓦(図20・21)

瓦15 唐草文軒平瓦 上外区、脇区に菱形の珠文、下外区には鋸歯文を配する。唐草文の各単位は分離している。焼成は良好で硬質である。大炊御門大路北側溝SD108出土。平城宮6679型式。

瓦16 唐草文軒平瓦 唐草文はやや太めで、全容は不明だが、池田瓦窯出土品と同範と思われる。築地SA106出土。平安時代前期。

瓦17 唐草文軒平瓦 中央に『↓』を配した中心飾りから、三転する唐草文。2番目の主葉には4本の支葉が付く。外区には珠文を配する。胎土は精良であるが、焼成はやや甘く、軟質である。SG105埋土出土。平安時代前期。

瓦18 唐草文軒平瓦 中心に『↓』を配する。対抗C字文や唐草文の巻きは強い。焼成が甘く、表面が磨滅している。西寺や太政官出土品と同範がある。SG105埋土出土。平安時代前期。

瓦19 唐草文軒平瓦 唐草文は強く巻き込み、両側に展開し、外区に小さめの珠文を配する。上外区の中央付近に『小』銘がある。周縁はヘラケズリ調整で、凹面の布目は粗い。釈迦谷廃寺

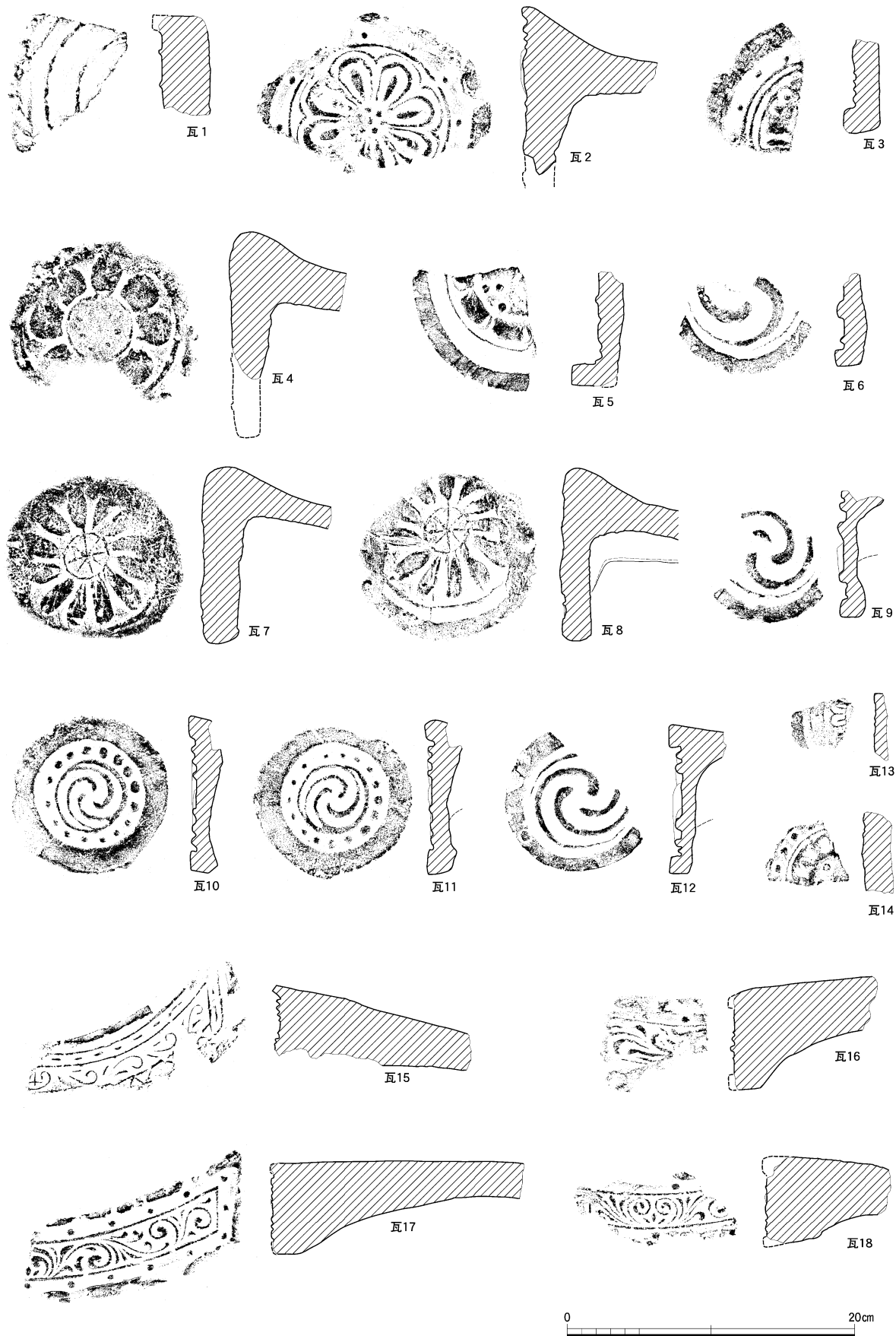


図20 平安時代の瓦拓影・実測図1 (1:4)



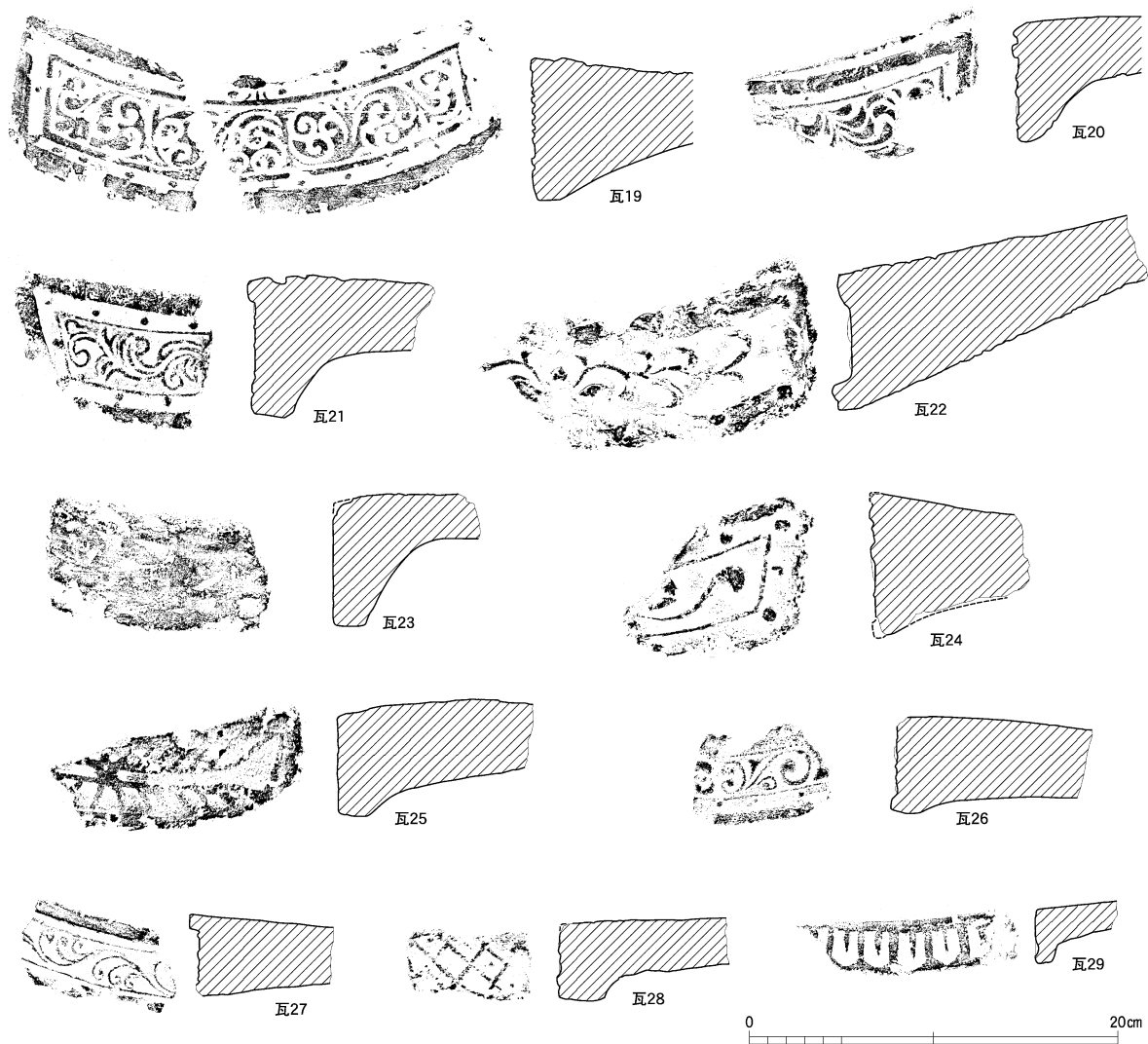


図 21 平安時代の瓦拓影・実測図 2 (1 : 4)

出土品<sup>3)</sup>と同範。河上瓦窯産。SG105 埋土出土。平安時代中期。

瓦 20 唐草文軒平瓦 小さな珠文を挟んで二重の界線を配する。外側の界線は幅広である。珠文間隔は広い。SG105A 洲浜整地出土。平安時代中期。

瓦 21 唐草文軒平瓦 唐草文は複線で表現され、子葉は強く巻き込む。砂粒多く、焼成はやや軟質。SG105 埋土出土。小野瓦窯<sup>4)</sup>出土品と同範。平安時代中期。

瓦 22 唐草文軒平瓦 中央の宝相華風花文の弁間から左右外方にゆるく反転する唐草文を配する。幅広の外縁に珠文を配している。無顎で、凸面は粗い縄目タタキ。砂粒を多く含む。SG105 埋土出土。平安時代後期。

瓦 23 唐草文軒平瓦 唐草文と思われるが、範の打ち込みが浅く文様不詳。硬質。SG105 埋土出土。平安時代後期。

瓦 24 唐草文軒平瓦 唐草文は単純で、単位は大きく太い。外区を画する界線も太めで、珠文は大きく間隔が広い。凹面、側面、凸面ともにをへラケズリ調整。胎土は細粒だが、石英粒を多く含む。SG105 埋土出土。平安時代後期。

瓦 25 幾何文軒平瓦 範の打ち込みが浅く、文様は判然としないが、瓦当面を水平に横切る2本の直線から、それぞれ上下に派生する斜め放射の線で構成されたように見える。焼成は硬質。SG105 埋土出土。平安時代後期。

瓦 26 唐草文軒平瓦 中央の対向C字文は強く巻き込み、端部を玉状に作る。唐草文の巻きも強く先端が大きく玉状となる。下外区の珠文は確認できるが、上外区は磨滅しており不明。SG105 埋土出土。平安時代中期。

瓦 27 唐草文軒平瓦 ゆったり反転する主葉から内方に支葉が派生する。珠文はなく、界線の際から直接周縁となる。SG105 埋土出土。平安時代中期。

瓦 28 幾何文軒平瓦 斜格子文軒平瓦 格子目の中央に小さな珠文が配されている。磨滅が激しく、文様の細部は不明。SG105 埋土出土。平安時代後期。

瓦 29 剣頭文軒平瓦 瓦当幅は狭く、曲率も少ない。剣頭文の単位は平行に配される。SG105 埋土出土。平安時代末期。

## 2) 土器類

### SD108 出土土器 (図 22・23、表 2、付表 3)

土師器・須恵器・黒色土器などが出土した。総破片数 2,091 片の内容は表 2 のとおりである。

表 2 SD108 出土土器の構成

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	杯・椀・皿	1314	83.5%
	高杯・盤・鉢	43	2.7%
	甕・釜・鍋	206	13.1%
	その他	0	0.0%
	不明	11	0.7%
	小計	1574	100.0%
黒色土器	杯・椀・皿	9	64.3%
	甕	5	35.7%
	鉢	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	14	100.0%
須恵器	杯・椀・皿	287	57.0%
	壺・瓶	96	19.1%
	鉢	18	3.6%
	甕・大型壺	95	18.9%
	その他	2	0.4%
	不明	5	1.0%
	小計	503	100.0%
他	0	- 0.0%	
総数		2091	- 100.0%

土師器は小片が多く、器表の磨滅したものが多い。器形には皿 A (41～47)・杯 A (50～52)・杯 X (48)・椀 A (49)・杯 B (54～57)・杯 B 蓋 (53)・皿 B (58)・甕 (59～63) がある。食器類の大半が外面へラケズリ調整されている。48 はロクロ成形で、他地域からの搬入品と思われる。53 は天井部外面にヘラミガキが確認できるが、器表が磨滅しており、単位は不明瞭である。甕は 59 をのぞき、外面をハケメ調整する。須恵器には杯 A (72・73)・杯 B (69～71)・杯 B 蓋 (64～66)・皿 C (67)・皿 B (68)・壺 A (81)・壺 M (74～77)・鉢 D (82)・鉢 A (83)・甕 (78～80) がある。土師器に比べ破片の大きなものも多く、器表の状態も良好である。甕 78・79 は土師器のような形態であるが、ロクロ成形で硬質に焼かれている。黒色土器には杯・甕があるが、小片ばかりで図示できるものはない。土師器の形態や製作技法の特徴や施釉陶器が全く含まれていない点からみて 9 世紀初頭に位置づけられる。このほか SD108 からは土馬 (84) が 1 点出土した。

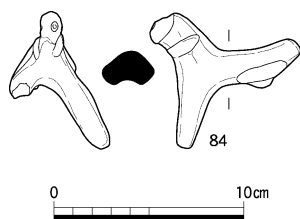


図 22 SD108 出土土馬実測図 (1 : 4)

SK83 出土土器 (図 24、付表 4)

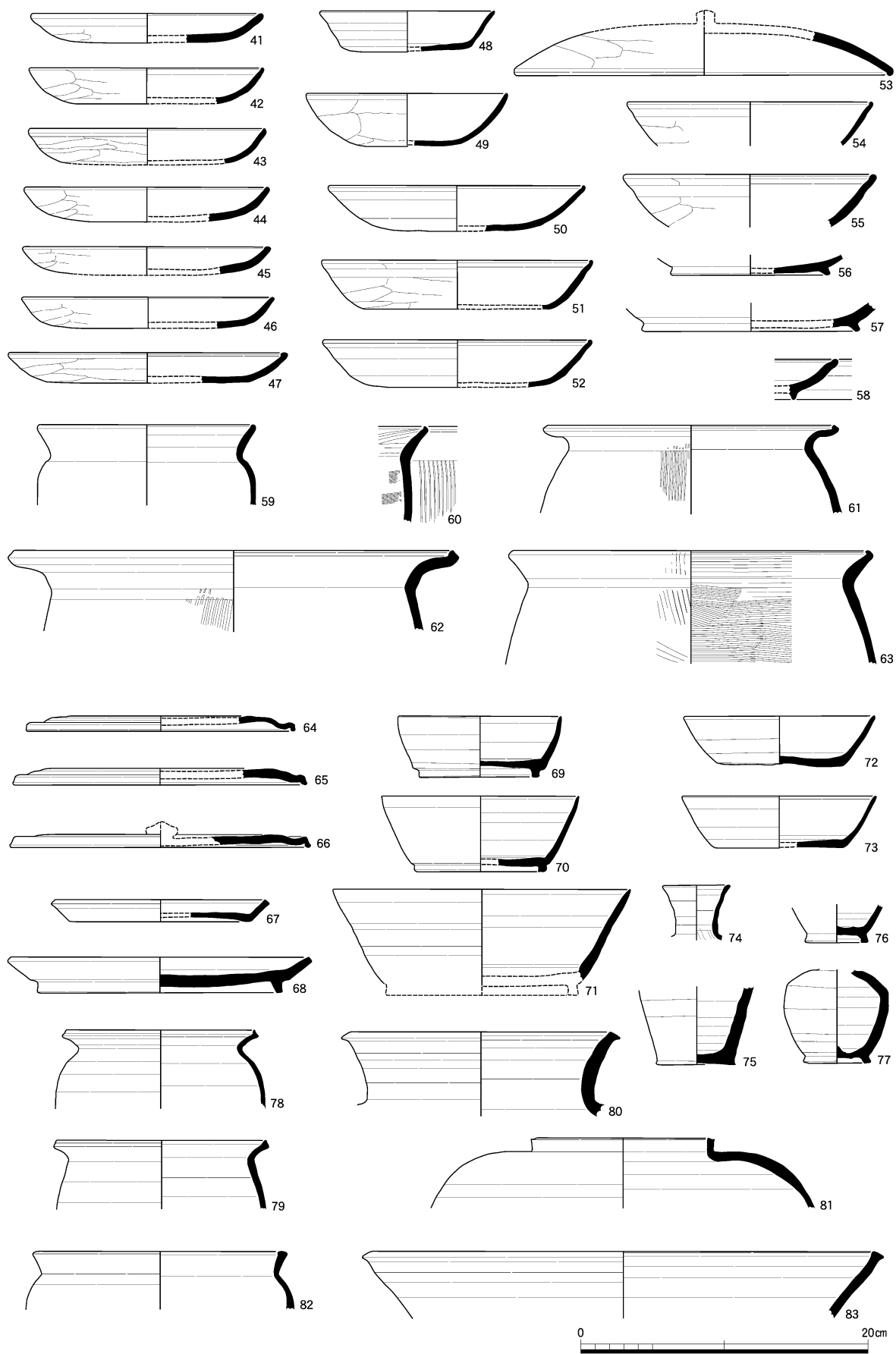


图 23 SD108 出土土器实测图 (1 : 4)

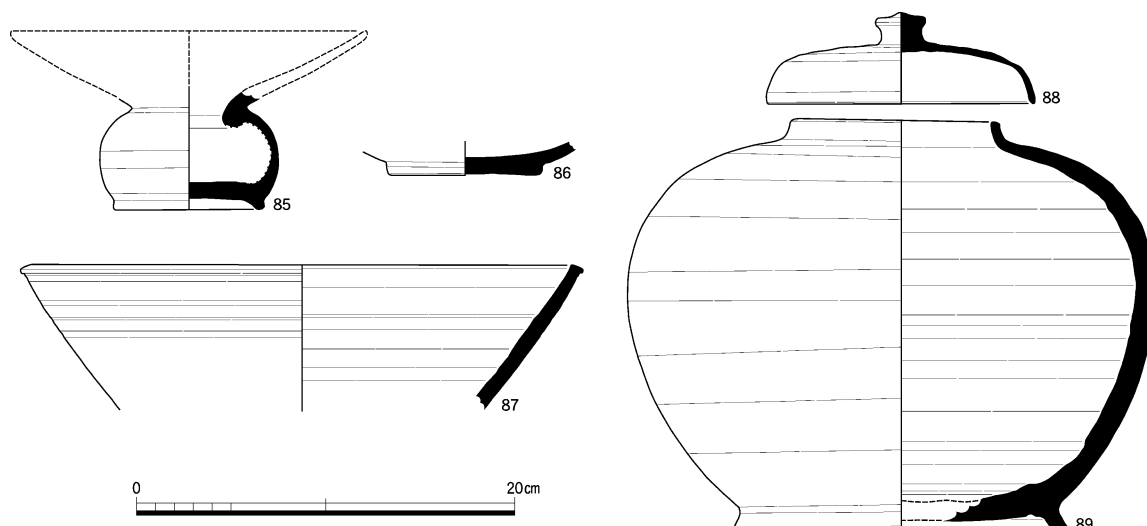


図 24 SK83・SK88 出土土器実測図（1：4）

緑釉陶器唾壺・椀、須恵器鉢が瓦片とともに出土した。唾壺（85）は軟質で、一部に淡緑灰色の釉が残るが、ほとんど剥落している。高台は貼り付け。椀（86）も軟質で、内外面ともに淡黄緑色の釉が厚く施されている。この2点は幡枝産の製品と思われる。須恵器鉢（87）は体部が直線的に開く。SD108の83と同型の鉢である。

表 3 SG105 出土土器の構成

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	杯・椀・皿	845	72.0%
	高杯・盤・鉢	175	14.9%
	甕・釜・鍋	103	8.8%
	その他	1	0.1%
	不明	49	4.2%
	小計	1173	100.0%
黒色土器	杯・椀・皿	50	86.2%
	甕	8	13.8%
	鉢	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	58	100.0%
須恵器	杯・椀・皿	36	15.0%
	壺・瓶	46	19.1%
	鉢	28	11.7%
	甕・大型壺	125	52.1%
	その他	1	0.4%
	不明	4	1.7%
小計	240	100.0%	
緑釉陶器	杯・椀・皿	75	97.4%
	壺・瓶	1	1.3%
	その他	1	1.3%
	不明	0	0.0%
	小計	77	100.0%
灰釉陶器	杯・椀・皿	30	76.9%
	壺・瓶	8	20.5%
	その他	1	2.6%
	不明	0	0.0%
	小計	39	100.0%
白色土器	杯・椀・皿	26	72.2%
	高杯	4	11.1%
	盤	0	0.0%
	その他	2	5.6%
	不明	4	11.1%
小計	36	100.0%	
輸入陶磁器	杯・椀・皿	5	71.4%
	壺・瓶	2	28.6%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	7	100.0%
他	その他・不明	0	-
総数		1630	- 100.0%

線的に開く。SD108の83と同型の鉢である。

SK88 出土土器（図 24、図版 10、付表 5）

白色土器の短頸壺の蓋（88）と身（89）が出土した。破片が土壇底部に散乱していたが、復元すれば各々 1 個体になった。他の土器類は全く出土せず、この蓋と身が組み合わせられ埋納されていたと思われる。この形態の壺は白色土器としては初見である。

SG105 出土土器（図 25、図版 10・11、表 3、付表 6）

各時期の洲浜や池の堆積土から土師器・黒色土器・緑釉陶器・白色土器・灰釉陶器（山茶椀）など、総破片数にして 1,630 片が出土し、その構成は表 3 のとおりである。出土単位ごとに図示したが、形式的に大きな開きはなく、すべて 11 世紀前半代におさまるもので、ここではまとめて概説する。土師器には皿 A（90～92・103～106・109・110・115～121）・皿 Ac（93）・皿 N（94～102・107・111～113・122・123）がある。皿 A は口径 11.1 cm 前後のものが主体で、他に 13.2 cm のやや大型のものが 1 点ある。製作技法や形態的な特徴は共通している。皿 Ac は口径 13.6 cm のものが 1 点出土している。皿 N は口径で 11.1 cm 前後、13.0 cm 前後、14.4 cm 前後と

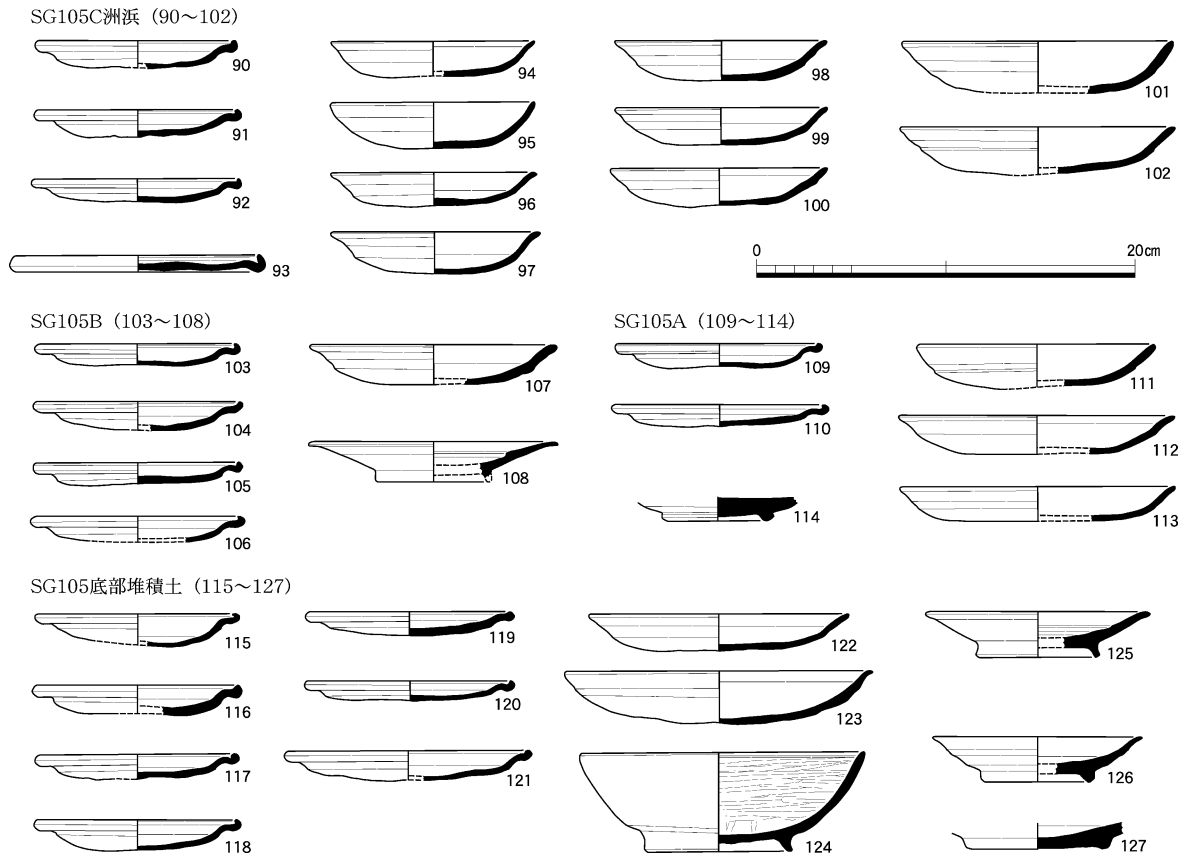


図 25 SG105 出土土器実測図 (1 : 4)

16.4 cmの4群に分けることができる。いずれも口縁部外面に2段ナデを施し、外反している。黒色土器には碗(124)がある。内外面とも黒色化し、幅広のミガキを内面にのみ施す。緑釉陶器は瓶と香炉の小片が1片ずつあるほかはすべて碗皿類である。図示した2点(108・125)はいずれも段皿で、貼り付け高台を持つ東海系の製品である。白色土器も碗皿類が主体で、その他に高杯、壺、香炉の脚などがある。灰釉陶器は碗皿類のほか瓶類があるがすべて小片である。図示した2点(126・127)はどちらにも施釉痕が確認できず、山茶碗とすべきものかもしれない。

### 3) 石製品 (図 26)

2区SG105南側の整地層から石製銚具丸鞆(石4)が1点出土している。石材は軟質で白地に黒斑がある。表面が風化しており、研磨の状態は不明。裏面の3箇所潜り穴を作る。石材は平安京出土の石製銚具としてよくみかけるものだが、縦/横比が0.8と、平安時代の丸鞆としては特異である。<sup>5)</sup>

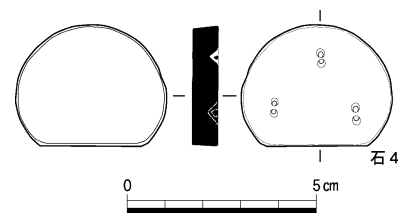


図 26 丸鞆実測図 (1 : 2)

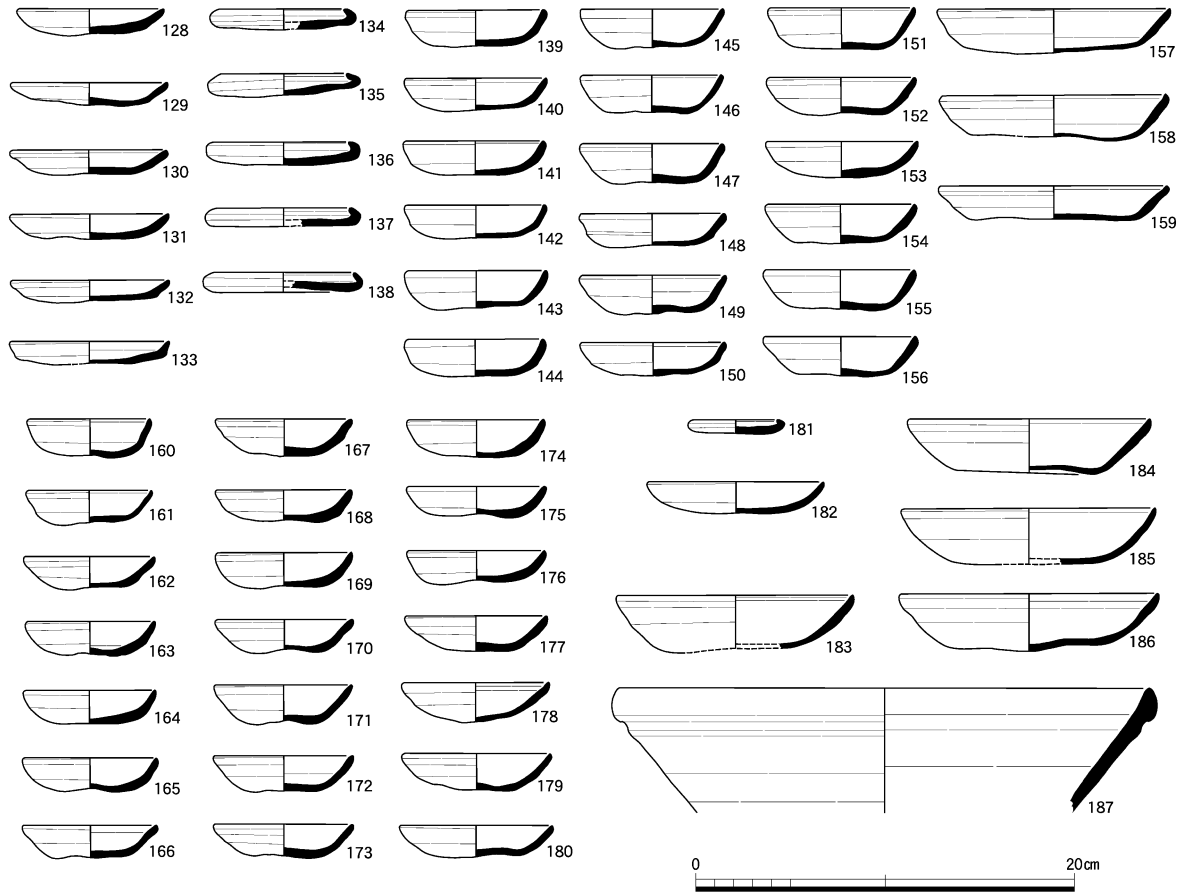


図 27 SK16 出土土器実測図 (1 : 4)

表 4 SK16 出土土器の構成

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	3128	99.8%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	0	0.0%
	その他	5	0.2%
	小計	3133	100.0%
瓦器	碗・皿	0	0.0%
	鍋・釜	11	42.3%
	壺・瓶	15	57.7%
	火舎・火鉢	0	0.0%
	その他	26	100.0%
小計	1	2.8%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	10	27.8%
	壺・瓶	3	8.3%
	鉢	22	61.1%
	甕	0	0.0%
	他	36	100.0%
小計	0	0.0%	
国産施釉陶器	碗・皿	2	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	小計	2	100.0%
輸入陶磁器	碗・皿	2	66.7%
	壺・瓶	1	33.3%
	その他	0	0.0%
	小計	3	100.0%
他	他・不明	0	-
総数		3200	- 100.0%

表 5 SE07 出土土器の構成

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	2052	100.0%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	小計	2052	100.0%
瓦器	碗・皿	0	0.0%
	鍋・釜	13	44.8%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	16	55.2%
	その他	0	0.0%
小計	29	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	鉢	0	-
	甕	0	-
	他	0	-
小計	0	-	
国産施釉陶器	碗・皿	5	83.3%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	1	16.7%
	小計	6	100.0%
焼締陶器	壺	1	16.7%
	甕	1	16.7%
	鉢・盤	4	66.6%
	その他	0	0.0%
	小計	6	100.0%
輸入陶磁器	碗・皿	6	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	小計	6	100.0%
他	他・不明	0	-
総数		2099	- 100.0%

### (3) 平安時代以降の遺物

#### SK16 出土土器 (図 27、表 4、付表 7)

土師器・須恵器・瓦器・古瀬戸・輸入陶磁器(青磁)が出土しているが、表4のごとくそのほとんどが土師器の皿類である。土師器皿類には皿 Ac・皿 N・皿 Sc・皿 Sがある。皿 Ac (134～138) は口縁端部を内側に折り曲げた、いわゆるコースター形の皿である。口径は 8.1 cm 前後にまよっている。皿 N には口径が 7.8 cm 前後の小型のもの (128～133) と、12.3 cm 前後の大型のもの (157～159) のほか、小型で深いもの (139～156) の 3 群がある。後者の形態は皿 S の小型品に近似する。皿 Sc (181) は口径 5.1 cm の小型のものが 1 点ある。皿 S には口径 7.3 cm 前後 (160～180) と 13.2 cm 前後 (183～186) のほか口径に対して通常のものより浅く、皿 N の形態に近いもの (182) がある。土師器以外の土器類は小片が多く東播系の鉢 (187)、のほか図示できるものがほとんどない。この土器群は土師器の型式的特徴から 13 世紀中頃に位置づけられる。

#### SE07 出土土器 (図 28、図版 11・12、表 5、付表 8)

15 世紀末頃の土師器・瓦器・古瀬戸・焼締陶器・輸入陶磁器(青磁)が出土している。表5に示したとおり主体は土師器の皿である。土師器皿には、皿 N・皿 Sh・皿 S・皿 X がある。皿 N (188

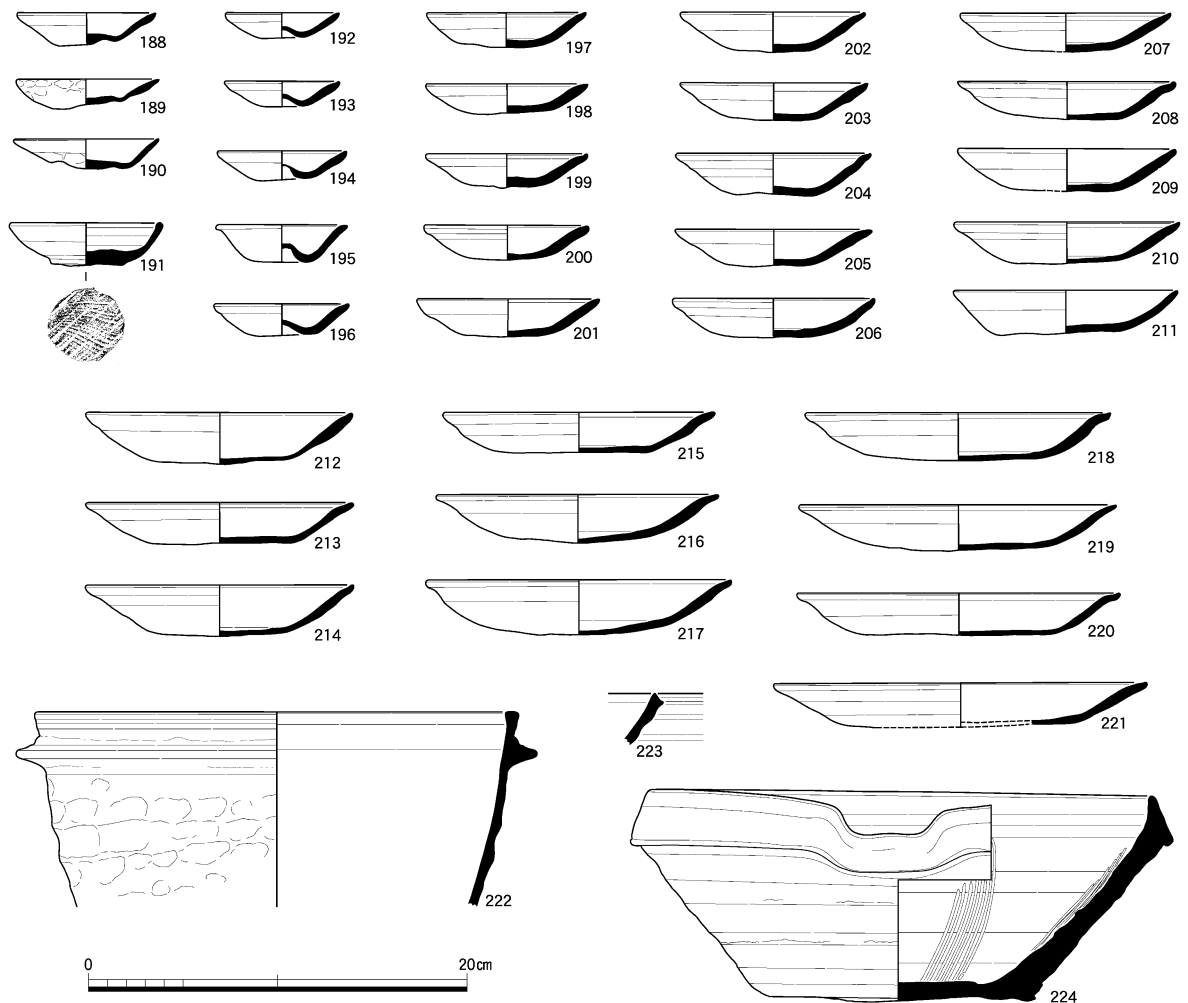


図 28 SE07 出土土器実測図 (1 : 4)

～190)は口径7.6cm前後。粗雑な作りである。皿Sh(192～196)はいわゆるへそ皿で、口径6.1cmと7.2cm前後の2種がある。皿Sは口径により、8.6cm前後(197～200)、9.9cm前後(201～206)、11.5cm前後(207～211)、14.2cm前後(212～216)、16.0cm前後(217・218)、16.9cm前後(219・220)、19.8cm(221)の7群に分けることができる。皿Nに比して成形・調整ともに丁寧である。221の内面には金箔が施されているが、ほとんど剥落している。皿Xはロクロ成形で、底部外面に静止糸切り痕を残す。他地域からの搬入品である。瓦器には火鉢と羽釜(222)があるが、火鉢は体部の小片ばかりで図示できない。古瀬戸もすべて小破片であるが、

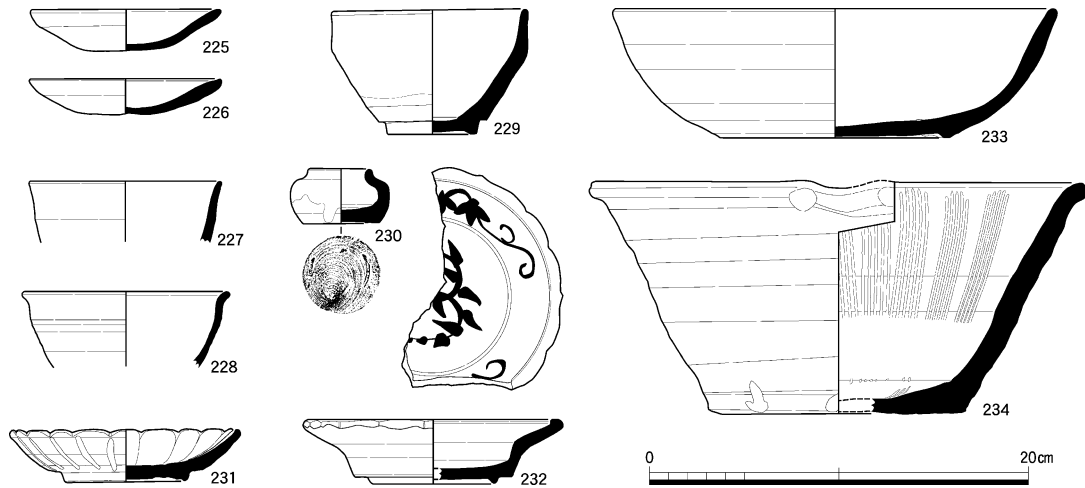


図 29 SK34 出土土器実測図(1:4)

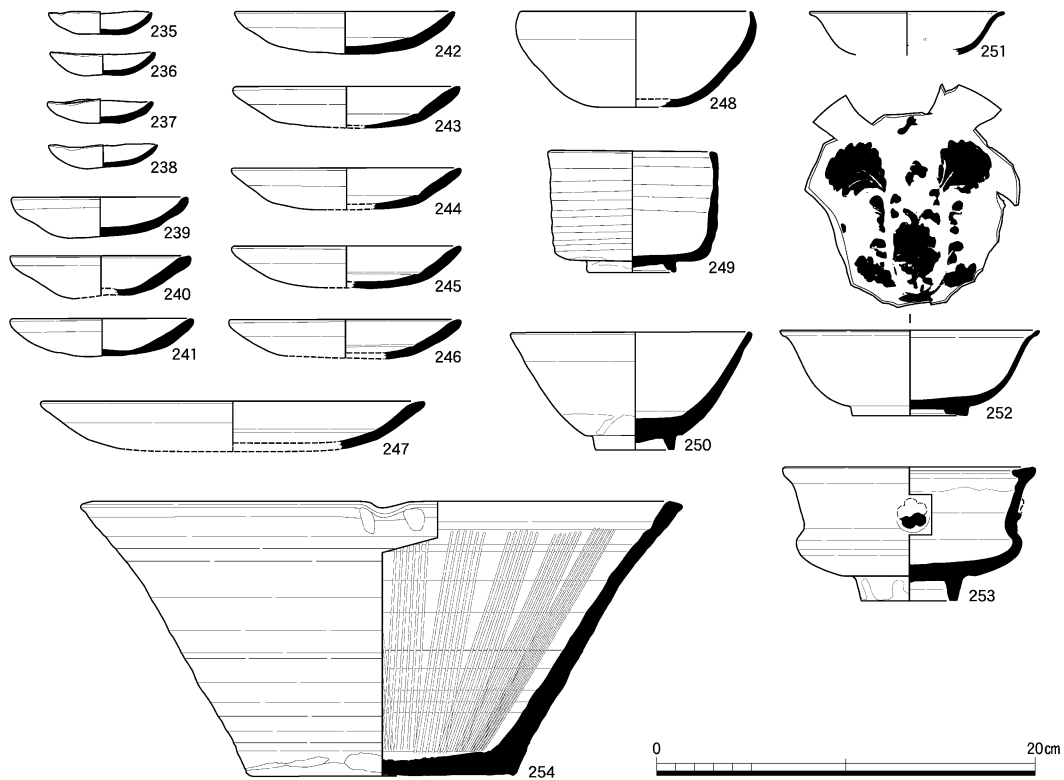


図 30 SE11 出土土器実測図(1:4)



鉦目皿あるいは小型の鉢と思われる口縁部（223）を図示した。焼締陶器には備前播鉢（224）のほか常滑と思われる甕片がある。輸入陶磁器はすべて青磁碗の小片である。

#### SK34 出土土器類（図 29、図版 13、付表 9）

土師器・国産施釉陶器・焼締陶器などがあるが、少量のため構成比は示さない。土師器は口径 10.2 cm 前後の皿 Sb（225・226）のみで、他の器形はない。国産施釉陶器には唐津系の灰釉碗（227・228）、美濃系の天目碗（229）、灰釉小壺（230）、長石釉菊皿（231）、志野鉢（232）、黄瀬戸大鉢（233）がある。230 は底部外面に糸切り痕を残す。焼締陶器はすべて信楽の播鉢（234）である。17 世紀前半の土器群である。

#### SE11 出土土器（図 30、図版 13、表 6、付表 10）

井戸底部近くからまとまって出土したが、総数は 351 片とさほど多くはない。構成は表 6 に示したとおりで、土師器・国産施釉陶磁器・焼締陶器・輸入陶磁器があり、土師器が 7 割弱を占める。土師器には小型で粗製の皿 N（235～238）・皿 Sb（239～241）・皿 S（242～247）のほか鉢（248）や鍋がある。皿 S は口径 11.9 cm 前後のものが主であるが、20 cm を超えるもの（247）が 1 点ある。

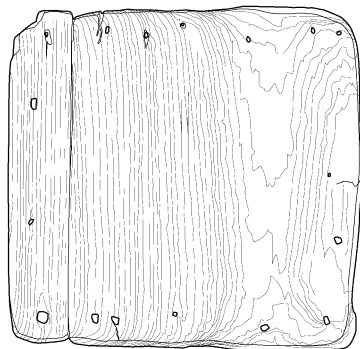
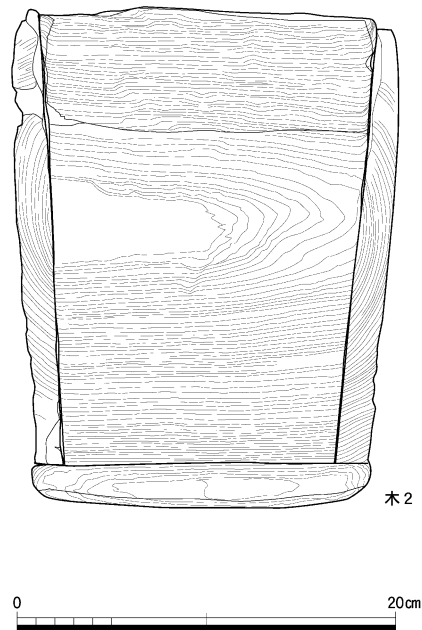
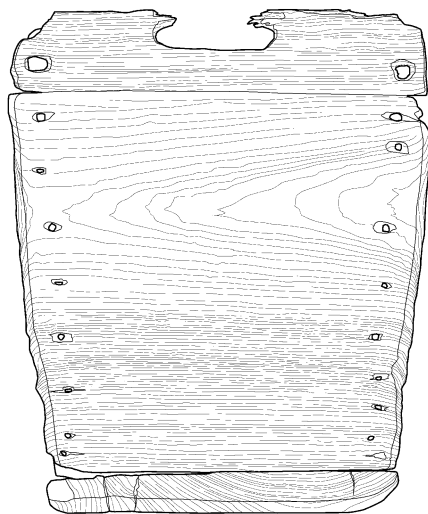
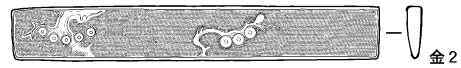
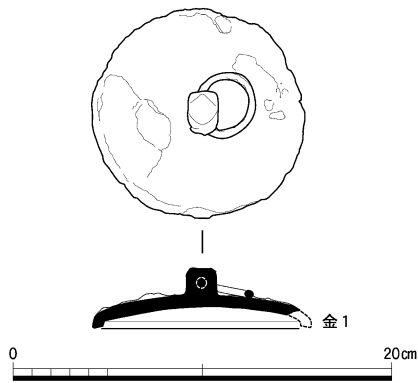
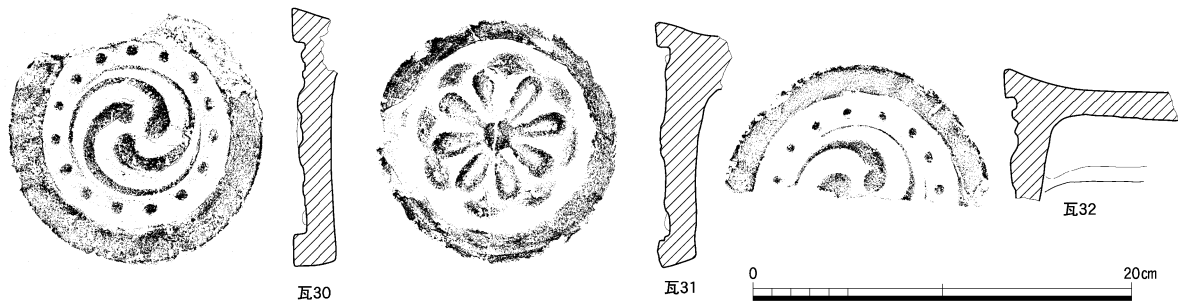
表 6 SE11 出土土器の構成

器種・器形		破片数	比率 (%)		
土師器	皿	233	98.7%	67.2%	
	鍋（焙烙）	2	0.9%		
	丸底鉢	1	0.4%		
	小計	236	100.0%		
施釉陶磁器	美濃	鉄釉碗皿	3	75.0%	1.2%
		志野鉢（向付）	1	25.0%	
		小計	4	100.0%	
	唐津	灰釉碗皿	4	36.4%	3.1%
		灰釉鉢（向付）	1	9.1%	
		鉄釉碗皿	6	54.5%	
	伊万里	小計	11	100.0%	11.7%
		染付碗皿	22	53.7%	
		染付鉢	8	19.5%	
		白磁碗皿	3	7.3%	
		青磁碗皿	1	2.4%	
	京焼	青磁香炉	7	17.1%	2.0%
小計		41	100.0%		
灰釉碗		7	-		
施釉陶磁器計		63	-	(18.0%)	
焼締陶器	備前盤	1	2.0%	14.2%	
	備前他・不明	1	2.0%		
	信楽播鉢	7	14.0%		
	丹波播鉢	41	82.0%		
	焼締陶器計	50	100.0%		
輸入陶磁器	明染付碗皿	2	-	0.6%	
総数		351	-	100.0%	

表 7 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
縄文時代	縄文土器、石製品、木製品、植物種実	3箱	縄文土器32点、石刀1点、石斧柄1点、植物種実（一括）	2箱	0箱
弥生時代	弥生土器	2箱	弥生土器8点	1箱	0箱
平安時代前期	土師器、須恵器、白色土器、緑釉陶器、瓦、土製品、石製品、銭貨	5箱	土師器23点、須恵器21点、白色土器2点、緑釉陶器2点、土馬1点、軒丸瓦3点、軒平瓦4点、石製丸轆1点、	3箱	0箱
平安時代中期～後期	土師器、須恵器、白色土器、緑釉陶器、山茶碗、輸入陶磁器、瓦、銭貨、礎石	50箱	土師器32点、黒色土器1点、白色土器1点、緑釉陶器2点、山茶碗2点、銭貨1点、軒丸瓦11点、軒平瓦11点、礎石2点	10箱	35箱
鎌倉時代～室町時代	土師器、瓦器、白色土器、須恵器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦、銭貨	21箱	土師器93点、瓦器1点、須恵器1点、国産施釉陶器1点、焼締陶器1点、銭貨2点	5箱	13箱
桃山時代～江戸時代	土師器、瓦器、国産陶磁器、輸入陶磁器、瓦、金属製品、木製品	15箱	土師器16点、国産施釉陶器9点、国産磁器3点、焼締陶器2点、軒丸瓦3点、鉄蓋1点、小柄1点、釣瓶1点	3箱	8箱
合計		96箱	297点（16箱）	24箱	56箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より16箱多くなっている。



- 瓦30 SE24
- 瓦31 SE18
- 瓦32 SK12
- 金1 SE19
- 金2 SE11
- 金3 SE18
- 金4 SE07
- 金5 SG105埋土上面
- 木2 SE11

図31 その他の遺物拓影・実測図（1：4、金2～5のみ1：2）

国産施釉陶磁器には美濃・瀬戸系・唐津系の陶器(250)や伊万里染付(251・252)・白磁・青磁(253)などの磁器類、京焼きと思われる灰釉を施した椀(249)がある。数量的には磁器類が陶器類の比べて多く、特に美濃・瀬戸系の製品はわずかで、小片ばかりである。焼締陶器は丹波の播鉢(254)のほか信楽の播鉢や備前の盤などがあるが、丹波の製品が大半を占める。

#### (4) その他の遺物(図31、図版14)

軒丸瓦、鉄製蓋、小柄、銅銭、木製釣瓶などがある。

軒丸瓦(瓦30～32)はいずれも近世の遺構から出土している。瓦32には瓦当面にわずかに金箔が残っている。

鉄製蓋(金1)は铸造で、径11.5cm、高さ3.2cm。頂部に上端四隅を面取りした鈕を鑄出し、径3.0cm程の環を通してある。SE19出土。

小柄(金2)は銅製で、長さ9.6cm、幅1.5cm。片面に細かい魚子地に浮き彫りの梅文を施している。SE11出土。

銅銭は江戸時代の井戸SE18から乾元大寶(金3)が出土したほか、SE07から天禧通寶(金4)、SG105の埋土上面から元祐通寶(金5)が出土している。

木製釣瓶(木2)は内寸が一辺約18cm(上端)、深さ24cmで、底部はややすぼまる。加工は丁寧で、製作時には竹釘が使用されているが、その後鉄釘で補修されている。上端部には取っ手がほぞ組で取り付けられていたものと見られるが、腐食してはずれていた。同形の釣瓶がもう1点出土している。

## 4. まとめ

今回の調査では、縄文時代から近世に至る遺構・遺物を検出した。特に藤原頼通が造営した高陽院の池跡およびその汀を4時期に亘って検出できたことや、その高陽院の南限である大炊御門大路の路面・北側溝・築地跡が確認できたことは大きな成果といえよう。高陽院の池については過去に数箇所の調査で確認しているが、今回検出した南岸部は1981年度に検出した北岸部から約140 m南に位置する。この北岸を含め、これまでに高陽院西半部で検出されている池の汀の標高は40.4～40.5 mであり、今回の池の汀の標高もこれと一致していることからこれらは同一の池であり、西半での南北規模が約140 mあったことが確認できた。さらに汀部が4度の改修を受けていることも以前の調査成果と同様の状況である。さらに大炊御門大路の北側溝・築地の検出により、池の南岸と敷地南限の築地との間隔が15 m程度と判明したことは、平成元年に検出した池の西岸の位置とも併せ、建物などの主要施設が敷地の北部あるいは東部に存在したことを示唆するものである。この池は鎌倉時代に多量の礫を含む土砂で埋められていたが、この廃絶時期もこれまでの調査で確認されている事実と一致し、池が平安時代のうちは存続し、鎌倉時代に人為的に埋め戻されたことをあらためて確認できた。池の廃絶以降、鎌倉時代後期から室町時代後期に

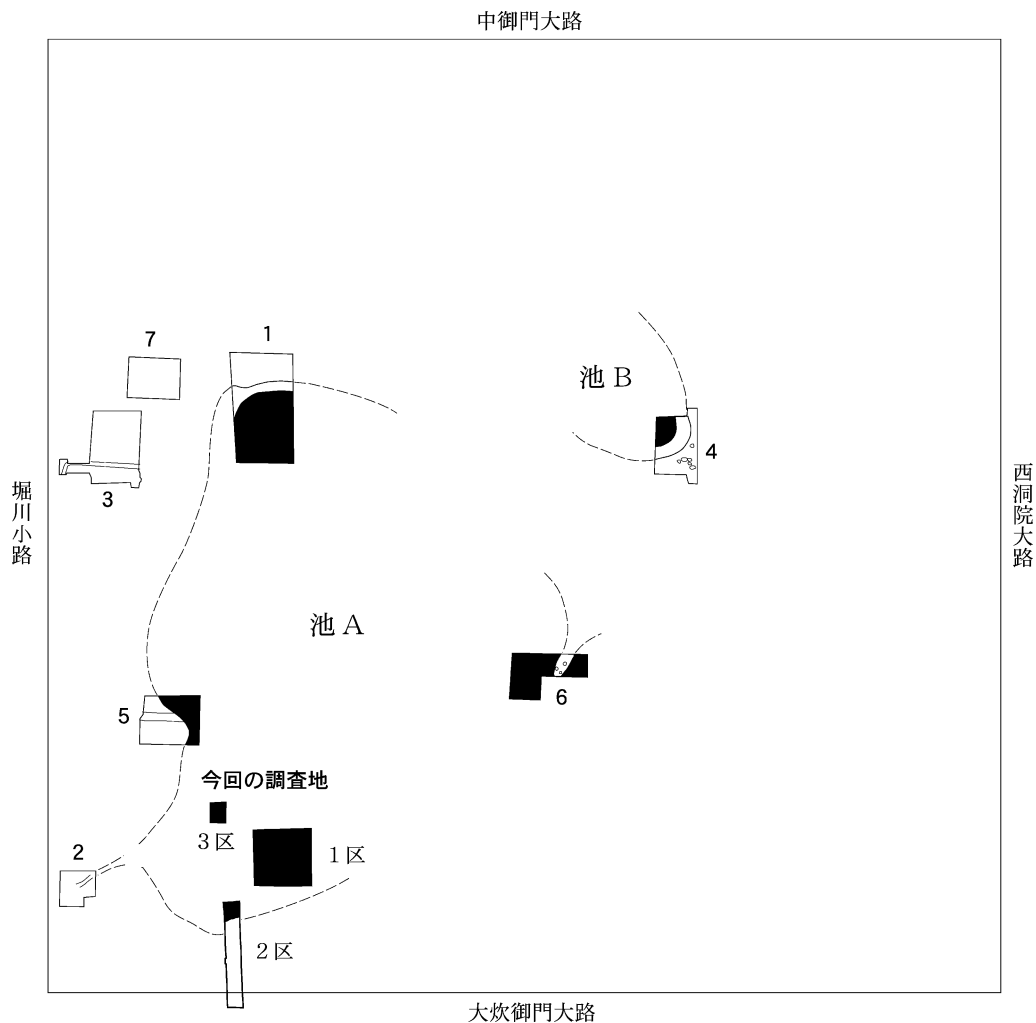


図 32 高陽院関係の遺構配置略図

かけての遺構には土壙や井戸などがあるものの密度は低く、高陽院以後しばらくは邸宅地としての継続的な土地利用は行われていなかったようである。遺構・遺物からみてこの地域が再び活発に利用されるようになるのは江戸時代に入った17世紀後半以降であろう。

また、今回の調査では下層の遺構として縄文時代晩期の遺物を含む川跡と、それが半ば埋没した跡に成立した弥生時代の湿地を検出した。池の南側の陸部から岸部にかけての整地がこの湿地の南岸付近の最上層に直接重なっていることから、平安時代まで湿地状の地形として残っていたことがうかがえる。このことから高陽院の池がこのような自然地形や地下の水脈などの条件を考慮に入れ造営されていたことが確認できた。

高陽院は1021年に関白藤原頼通が造営して以来、天皇や院の御所としてたびたび利用され、史料にも頻繁に登場する、平安京の中でも重要な遺跡である。今回の調査はその高陽院の調査として第8次にあたるものである。今回を含め、ほぼすべての調査で高陽院あるいはその前身にあたる平安時代前期から中期の遺構が検出され、平安京左京の遺跡としては特異的に地下遺構の残存状況が良好な遺跡である。今後周辺の開発にはさらに留意する必要があるだろう。

#### 註

- 1) 『平安京古瓦図録』平安博物館編 1977年
- 2) 『大谷中・高等学校校内遺跡発掘調査報告書』大谷高等学校法住寺殿跡遺跡調査会 1984年
- 3) 『木村捷三郎収集瓦図録』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 4) 「小野瓦窯跡」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成16年度』京都市文化市民局 2005年
- 5) 平尾政幸「平安京の石製銚具とその生産」『研究紀要 第7号』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2001年
- 6) 高陽院関係の既往の発掘調査については以下の報告がある。  
『平安京跡発掘調査概報 昭和56年度』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1982年  
『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983年  
『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1993年  
『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年  
『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999年

## 5. 付章 自然科学分析

2区の北端で池跡の南岸が検出され、その下位では縄文時代晩期の川跡が確認された。ここでは、当時の植生や堆積環境を推定する目的で植物珪酸体（プラント・オパール）分析、花粉分析、珪藻分析を行った。

分析試料は、池跡の洲浜付近から採取された48層（試料1、灰褐色シルト）と94層（試料2、灰褐色シルト）、および縄文時代晩期の川跡から採取された138層（試料4、腐植土層）と139層（試料5、シルト層）の計4点である。（層番号は図6による 以下同）

### I 植物珪酸体（プラント・オパール）分析

#### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（ $\text{SiO}_2$ ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。

#### 2. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直径約40  $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20  $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-6}\text{g}$ ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、チマキザサ節・チシマザサ節は0.75、ミヤコザサ節は0.30である（杉山，2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

### 3. 分析結果

#### (1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表8および図33に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す(図36)。

##### [イネ科]

イネ、キビ族型、ヨシ属、ウシクサ族A(チガヤ属など)

##### [イネ科タケ亜科]

メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型(ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型(ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

##### [イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、未分類等

#### (2) 植物珪酸体の検出状況

##### 1) 高陽院の池跡

94層(高陽院池跡の洲浜付近、試料2)では、ネザサ節型が比較的多く検出され、イネ、キビ族型、ヨシ属、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型なども検出された。イネの密度は2,700個/gと比較的低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを下回っている。48層(高陽院池跡の洲浜付近、試料1)では、ネザサ節型が増加しており、イネやヨシ属は検出されなかった。おもな分類群の推定生産量によると、94層ではヨシ属やネザサ節型、48層ではネザサ節型が優勢となっている。

##### 2) 縄文時代晩期の川跡

139層(縄文時代晩期川跡のシルト層、試料5)では、ネザサ節型が多量に検出され、ヨシ属、ウシクサ族A、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型なども検出された。138層(縄文時代晩期川跡の腐植土壌、試料4)でも、おおむね同様の結果である。おもな分類群の推定生産量によると、ネザサ節型が優勢となっている。

### 4. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

#### (1) 高陽院の池跡

池跡洲浜付近の94層の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺にはメダケ属(おもにネザサ節)などの竹笹類が分布していたと推定される。また、イネが検出されることから、何らかの形でイネ藁が利用されていたことが示唆される。48層ではヨシ属が見られなくなることから、堆積環境が乾燥化したことや、人為的な影響があった可能性が考えられる。

#### (2) 縄文時代晩期の川跡

縄文時代晩期の川跡の139層および138層の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境

表8 植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

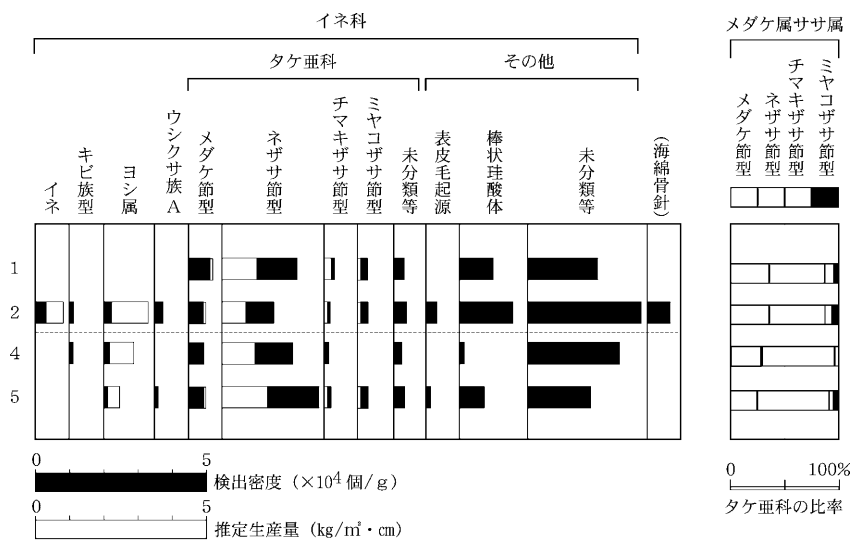
分類群	学名	地点・試料			
		1 48層	2 94層	4 138層	5 139層
イネ科	Gramineae (Grasses)				
イネ	<i>Oryza sativa</i>		27		
キビ族型	Panicaceae type		7	7	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>		21	14	7
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		21		7
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)				
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	60	41	35	42
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	213	144	201	277
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	27	14	7	14
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	27	27		28
未分類等	Others	27	34	21	28
その他のイネ科	Others				
表皮毛起源	Husk hair origin		27		7
棒状珪酸体	Rod-shaped	93	151	7	69
未分類等	Others	200	329	264	180
(海綿骨針)	Sponge		62		
植物珪酸体総数	Total	645	843	555	658

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	0	0.81	0	0
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0	1.30	0.88	0.44
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	0.69	0.48	0.40	0.48
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	1.02	0.69	0.97	1.33
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.20	0.10	0.05	0.10
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.08	0.08	0	0.08

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	35	35	28	24
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	51	51	68	67
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	10	8	4	5
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	4	6	0	4



- 1 48層 高陽院池跡 SG105D      4 138層 縄文晩期川跡の腐植土層  
2 94層 高陽院池跡 SG105C      5 139層 縄文晩期川跡のシルト層

図33 植物珪酸体ダイアグラム



であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（おもにネザサ節）などの竹笹類が分布していたと推定される。

#### 文献

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）. 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) プラント・オパール分析による水田址の探査. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

## II 花粉分析

### 1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復元に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

### 2. 方法

花粉の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加えて15分間湯煎
- 2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 4) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す
- 5) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

### 3. 結果

#### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉27、樹木花粉と草本花粉を含むもの4、草本花粉25、シダ植物孢子2形態の計58である。分析結果を表9に示し、花粉数が100個以上計数された試料につい

表9 花粉分析結果

分類群		1	2	4	5
学名	和名	48層	94層	138層	139層
Arboreal pollen	樹木花粉				
<i>Podocarpus</i>	マキ属				2
<i>Abies</i>	モミ属	7	1		1
<i>Tsuga</i>	ツガ属		5		1
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複維管束亜属	12	12		4
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	19	4	9	12
<i>Sciadopitys verticillata</i>	コウヤマキ	2	3		
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	11	5	10	16
<i>Salix</i>	ヤナギ属	1	16		
<i>Juglans</i>	クルミ属	3	2	3	
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			
<i>Betula</i>	カバノキ属	1	1		
<i>Corylus</i>	ハシバミ属	1			
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ	1	7	1	2
<i>Castanea crenata</i>	クリ	1	1	6	14
<i>Castanopsis</i>	シイ属	7	7	4	5
<i>Fagus</i>	ブナ属	3	5	1	1
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	31	26	24	41
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	16	4	21	29
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	1	3		1
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ	12		2	53
<i>Mallotus japonicus</i>	アカメガシワ	1			
<i>Ilex</i>	モチノキ属		1		
<i>Acer</i>	カエデ属		4		
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ		2	17	145
<i>Sapindus</i>	ムクロジ属			1	4
Oleaceae	モクセイ科			1	
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属				4
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉				
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	3	7	13	4
Rosaceae	バラ科		1	1	
Leguminosae	マメ科				2
Araliaceae	ウコギ科	1	1	1	1
Nonarboreal pollen	草本花粉				
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	3	1		
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	3			
Gramineae	イネ科	207	154	16	17
<i>Oryza type</i>	イネ属型	3	2		
Cyperaceae	カヤツリグサ科	16	8	10	2
<i>Aneilema keisak</i>	イボクサ	1			
<i>Monochoria</i>	ミズアオイ属	3			
<i>Polygonum</i>	タデ属	1	1		
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1	1	2	
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属		1		
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	18	30	1	
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	6		
<i>Ranunculus</i>	キンポウゲ属		2		
Cruciferae	アブラナ科	3	19	1	
<i>Impatiens</i>	ツリフネソウ属	1			
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ	1	1		
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属		1		
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科	5	1		
Apiioideae	セリ亜科	1	1	2	1
<i>Plantago</i>	オオバコ属	1	1		
<i>Actinostemma lobatum</i>	ゴキツル	2	1		
Lactuioideae	タンポポ科	1	2		
Asterioideae	キク亜科	7	4		2
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	65	29	2	3
<i>Carthamus tinctorius</i>	ベニバナ	1			
Fern spore	シダ植物胞子				
Monolate type spore	単条溝胞子	4	9	7	25
Trilate type spore	三条溝胞子	3	8		5
Arboreal pollen	樹木花粉	131	109	100	335
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	4	9	15	7
Nonarboreal pollen	草本花粉	345	266	34	25
Total pollen	花粉総数	480	384	149	367
Pollen frequencies of 1cm <sup>3</sup>	試料1cm <sup>3</sup> 中の花粉密度	2.6	3.0	6.5	2.8
		×10 <sup>4</sup>	×10 <sup>3</sup>	×10 <sup>3</sup>	×10 <sup>4</sup>
Unknown pollen	未同定花粉	10	22	6	12
Fern spore	シダ植物胞子	7	17	7	30
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	(++)	(+)	(-)	(-)

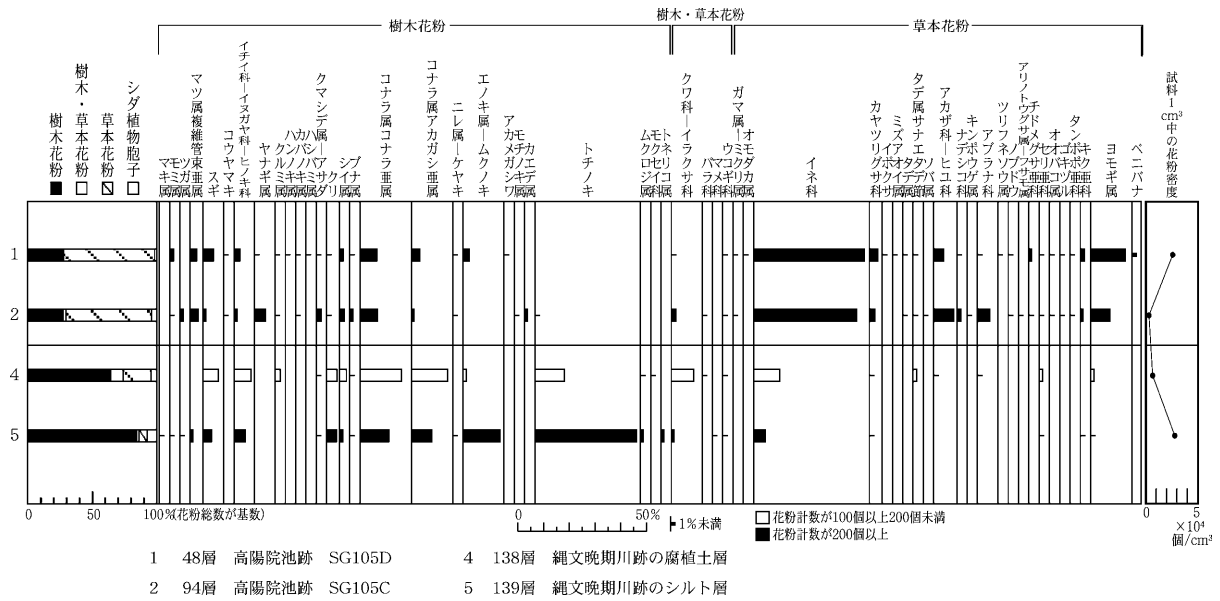


図 34 花粉ダイアグラム

では花粉総数を基数とする花粉ダイアグラム（図 34）を示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す（図 37）。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科 - イヌガヤ科 - ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属 - アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属 - ケヤキ、エノキ属 - ムクノキ、アカメガシワ、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、ムクロジ属、モクセイ科、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科 - イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属ミクリ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科 - ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、ノブドウ、アリノトウグサ属 - フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、オオバコ属、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属、ベニバナ

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

(2) 花粉群集の特徴

1) 高陽院の池跡

94 層（高陽院池跡の洲浜付近、試料 2）では、花粉総数に占める草本花粉の割合が 69% であり、草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）が優占し、ヨモギ属、アカザ科 - ヒユ科、アブラナ科、カヤツリグサ科、ソバ属、ガマ属 - ミクリ属などが伴われる。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、スギ、ヤナギ属、マツ属複雑管束亜

属、コウヤマキなどが検出された。48層（高陽院池跡の洲浜付近、試料1）でも同様の結果であり、草本花粉のミズアオイ属、オモダカ属、ベニバナ、イボクサ、樹木花粉のエノキ属-ムクノキなどが出現している。

## 2) 縄文時代晩期の川跡

139層（縄文時代晩期川跡のシルト層、試料5）では、花粉総数に占める樹木花粉の割合が91%であり、樹木花粉の占める割合が極めて高い。樹木花粉では、トチノキが優勢であり、エノキ属ムクノキ、コナラ属コナラ亜属、クリ、コナラ属アカガシ亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などが伴われる。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが検出された。138層（縄文時代晩期川跡の腐植土壌、試料4）では、花粉密度がやや低い。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属やコナラ属アカガシ亜属の占める割合が増加し、トチノキ、エノキ属-ムクノキは減少している。また、草本花粉のイネ科、樹木・草本花粉のクワ科イラクサ科が増加している。

## 4. 花粉分析から推定される植生と環境

### (1) 高陽院の池跡

池跡洲浜付近の94層と48層の堆積当時は、イネ科を主としてヨモギ属、アカザ科ヒユ科、アブラナ科なども生育する日当たりの良い開かれた環境であり、遺跡周辺ではイネ、ソバ、ベニバナなどの栽培が行われていた可能性が考えられる。また、周辺地域にはナラ類（コナラ属コナラ亜属）、カシ類（コナラ属アカガシ亜属）、マツ類（マツ属複維管束亜属）、ヤナギ属、コウヤマキなどの樹木が分布していたと推定される。

植栽の可能性のある樹木としては、ヤナギ属、カエデ属、マツ類などが想定される。また、イネ科、ガマ属ミクリ属、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、オモダカ属、イボクサなどの水生植物については、池跡内に生育していた可能性が考えられる。

### (2) 縄文時代晩期の川跡

縄文時代晩期の139層の堆積当時は、トチノキ、ナラ類、エノキ-属ムクノキ、クリなどの落葉樹を主として、カシ類などの照葉樹、スギなどの針葉樹も生育する多様性のある森林が分布していたと推定される。トチノキは、植物生態的にみて河川沿いに湿地林を形成していた可能性が考えられる。138層の時期には、何らかの原因でトチノキ、エノキ属-ムクノキなどの森林が減少し、イネ科、クワ科-イラクサ科が増加したと推定される。

## 文献

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.

中村 純（1973）花粉分析. 古今書院, p.82-110.

中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.

中村 純（1980）日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.

### Ⅲ 珪藻分析

#### 1. はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

#### 2. 方法

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

- 1) 試料から 1 cm<sup>3</sup>を秤量
- 2) 10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら 1 晩放置
- 3) 上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗 (5~6 回)
- 4) 残渣をマイクロピペットでカバーガラスに滴下して乾燥
- 5) マウントメディアによって封入し、プレパラート作成
- 6) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 600~1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 100 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

#### 3. 結果

##### (1) 分類群

出現した珪藻は、中真塩性種 (汽水水生種) 3 分類群、貧塩性種 (淡水水生種) 59 分類群である。分析結果を表 10 に示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定したダイアグラムを図 35 に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性については Lowe (1974) や渡辺 (2005)、陸生珪藻については小杉 (1986)、環境指標種群の海水水生種から汽水水生種については小杉 (1988)、淡水水生種については安藤 (1990) の記載を参照した。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記す。

##### 〔貧塩性種〕

*Achnanthes hungarica*, *Achnanthes lanceolata*, *Cyclotella meneghiniana*, *Cymbella silesiaca*, *Cymbella tumida*, *Eunotia bilunaris*, *Eunotia minor*, *Fragilaria capucina*, *Fragilaria construens v. subsalina*, *Fragilaria construens v. venter*, *Fragilaria elliptica*, *Gomphonema parvulum*, *Gomphonema truncatum*, *Gyrosigma spp.*, *Hantzschia amphioxys*, *Navicula confervacea*, *Navicula mobiliensis v. minor*, *Navicula pupula*, *Neidium ampliatum*, *Pinnularia gibba*, *Pinnularia microstauron*, *Synedra ulna*

##### (2) 珪藻群集の特徴

###### 1) 高陽院の池跡

94 層 (高陽院池跡の洲浜付近、試料 2) では、止水性種の *Fragilaria elliptica*, *Fragilaria construens v. venter* が優占し、流水不定性種の *Fragilaria construens v. subsalina* などが低率に伴われる。48 層 (高陽院池跡の洲浜付近、試料 1) では、下位で優占した止水性種の *Fragilaria elliptica*, *Fragilaria*

表 10 珪藻分析結果

分類群	1	2	4	5
	48層	94層	138層	139層
中-真塩性種 (汽-海水生種)				
<i>Achnanthes hungarica</i>	9	1		
<i>Achnanthes lanceolata</i>	7	1		
<i>Amphora copulata</i>	4			
<i>Aulacoseira</i> spp.	1			
<i>Caloneis silicula</i>	3			
<i>Cyclotella meneghiniana</i>	6			
<i>Cyclotella</i> spp.	1			
<i>Cymbella lanceolata</i>	3			
<i>Cymbella silesiaca</i>	8			
<i>Cymbella tumida</i>	20			
<i>Eunotia bilunaris</i>	8			
<i>Eunotia gracialis</i>	4			
<i>Eunotia minor</i>	18	1		
<i>Eunotia praerupta</i>				1
<i>Eunotia</i> spp.	2			
<i>Fragilaria arcus</i>	1			
<i>Fragilaria bicapitata</i>		1		
<i>Fragilaria capucina</i>	31	2		
<i>Fragilaria construens v. subsalina</i>		6	3	
<i>Fragilaria construens v. venter</i>	7	82	5	
<i>Fragilaria elliptica</i>	33	239	6	
<i>Fragilaria</i> spp.	3	2		
<i>Gomphonema acuminatum</i>	2			
<i>Gomphonema augur</i>	3			
<i>Gomphonema gracile</i>	2		1	
<i>Gomphonema olivaceum</i>	3			
<i>Gomphonema parvulum</i>	31	2		
<i>Gomphonema</i> spp.		1		
<i>Gomphonema truncatum</i>	8			
<i>Gyrosigma</i> spp.	22		1	
<i>Hantzschia amphioxys</i>	10			
<i>Melosira varians</i>	1			
<i>Meridion circulare v. constrictum</i>	1			
<i>Navicula confervacea</i>	12	2		
<i>Navicula elginensis</i>	3			
<i>Navicula lanceolata</i>	1			
<i>Navicula mobiliensis v. minor</i>	18	2		
<i>Navicula mutica</i>	1		1	
<i>Navicula pupula</i>	6			
<i>Navicula</i> spp.	1	1		
<i>Neidium affine</i>	1			
<i>Neidium ampliatum</i>	6			
<i>Nitzschia palea</i>	4			
<i>Pinnularia acrosphaeria</i>	3			
<i>Pinnularia brevicostata</i>	2			
<i>Pinnularia gibba</i>	8			
<i>Pinnularia interrupta</i>	1			
<i>Pinnularia karelica</i>	1			
<i>Pinnularia microstauron</i>	6			
<i>Pinnularia nodosa</i>	1			
<i>Pinnularia</i> spp.	1		1	
<i>Pinnularia subcapitata</i>	1			
<i>Pinnularia viridis</i>	4			
<i>Stauroneis lauenburgiana</i>	1			
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>	4			
<i>Surirella angusta</i>	2			
<i>Surirella ovata</i>	1			
<i>Synedra ulna</i>	23			
<i>Tabellaria fenestrata-flocculosa</i>	1			
中-真塩性種 (汽-海水生種)				
<i>Bacillaria paradoxa</i>	3			
<i>Hantzschia elongata</i>	1			
<i>Nitzschia levidensis v. victoriae</i>	3			
合計	372	343	18	1
未同定	11	1	1	0
破片	58	12	6	0
試料 1 cm <sup>3</sup> 中の殻数密度	2.4	2.3	7.6	2.0
	×10 <sup>6</sup>	×10 <sup>6</sup>	×10 <sup>3</sup>	×10 <sup>2</sup>
完形殻保存率 (%)	86.8	96.6	-	-

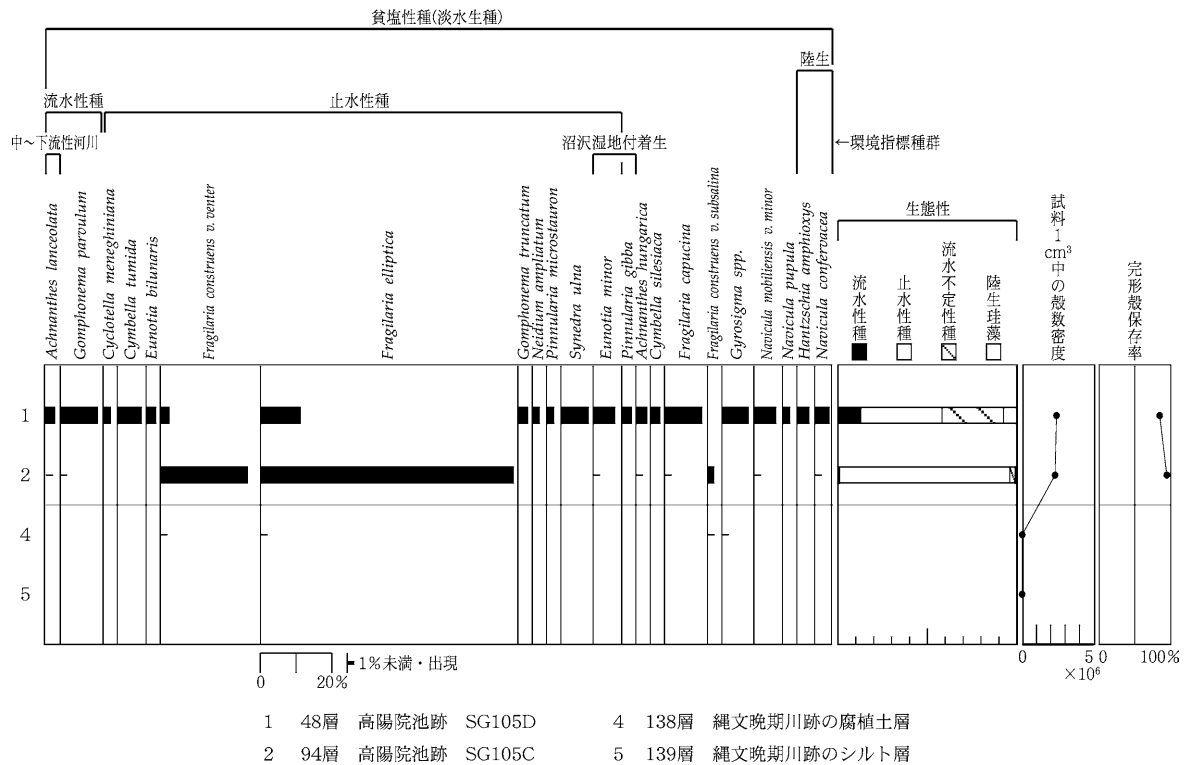


図 35 主要珪藻ダイアグラム

*construens v. venter*が減少し、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotia minor*、流水不定性種の *Fragilaria capucina*、*Gyrosigma spp.*、*Navicula mobiliensis v. minor*、流水性種の *Gomphonema parvulum*、中～下流性河川環境指標種群の *Achnanthes lanceolata*、陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys*、*Navicula confervacea* などが多様に検出された。

## 2) 縄文時代晩期の川跡

139層（縄文晩期川跡のシルト層、試料5）では、珪藻がほとんど検出されなかった。138層（縄文晩期川跡の腐植土層、試料4）では、止水性種の *Fragilaria elliptica*、*Fragilaria construens v. venter* などが検出されたが、いずれも少量である。

## 4. 珪藻分析から推定される堆積環境

### (1) 高陽院の池跡

池跡洲浜付近の94層の堆積当時は、流水の影響がない安定した滞水域であったと推定される。上位の48層では、流水の影響のある不安定な滞水域、水草の生育する湿地、湿潤な陸域などの多様な環境が示唆される。

### (2) 縄文時代晩期の川跡

縄文時代晩期川跡の土層では、珪藻があまり検出されないことから堆積環境の推定は困難である。珪藻が検出されない原因としては、水流による淘汰を受けたことや、土層の堆積速度が速かったことなどが考えられる。また、花粉分析の結果では、森林に覆われるような状況が想定される

ことから、珪藻の生育に適さない日陰となっていた可能性も考えられる。

#### 文献

Asai,K.&,Watanabe,T.(1995)Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution( 2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,p.35-47.

Lowe,R.L.(1974)Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh-water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.

Patrick, R.eimer, C. W.(1966) The diatom of the United States, vol. 1 . Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 644p.

Patrick, R.eimer, C. W.(1975) The diatom of the United States, vol. 2 . Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 213p.

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用．東北地理，42，p.73-88.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，6，p.23-45.

小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義わが国への導入とその展望．植生史研究，第1号，植生史研究会，p.29-44.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p. 1 - 20.

渡辺仁治（2005）淡水珪藻生態図鑑 群集解析に基づく汚濁指数 DAIPo, pH 耐性能．内田老鶴圃，pp.666.

## IV 小 結

### （1）高陽院の池跡

池跡洲浜付近の94層と48層の堆積当時は、イネ科を主としてヨモギ属、アカザ科 - ヒユ科、アブラナ科なども生育する日当たりの良い開かれた環境であり、遺跡周辺ではイネ、ソバ、ペニバナなどの栽培が行われていた可能性が考えられる。また、周辺地域にはナラ類、カシ類、マツ類、ヤナギ属、コウヤマキなどの樹木、およびメダケ属（おもにネザサ節）などの竹笹類が分布していたと推定される。

植栽の可能性のある樹木としては、ヤナギ属、カエデ属、マツ類などが想定される。また、イネ科（ヨシ属など）、ガマ属ミクリ属、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、オモダカ属、イボクサなどの水生植物については、池跡内に生育していた可能性が考えられる。

珪藻分析の結果から、94層では流水の影響がない安定した滞水域が推定されるが、上位の48層では流水の影響のある不安定な滞水域、水草の生育する湿地、湿潤な陸域などの多様な環境が示唆される。

### （2）縄文時代晩期の川跡

縄文時代晩期の139層の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、



周囲にはトチノキ、ナラ類、エノキ属-ムクノキ、クリなどの落葉樹を主として、カシ類などの照葉樹、スギなどの針葉樹も生育する多様性のある森林が分布していたと推定される。トチノキは、植物生態的にみて河川沿いに湿地林を形成していた可能性が考えられる。また、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（おもにネザサ節）などの竹笹類が分布していたと考えられる。上位の138層の時期には、何らかの原因でトチノキ、エノキ属ムクノキなどの森林が減少し、イネ科、クワ科-イラクサ科が増加したと推定される。

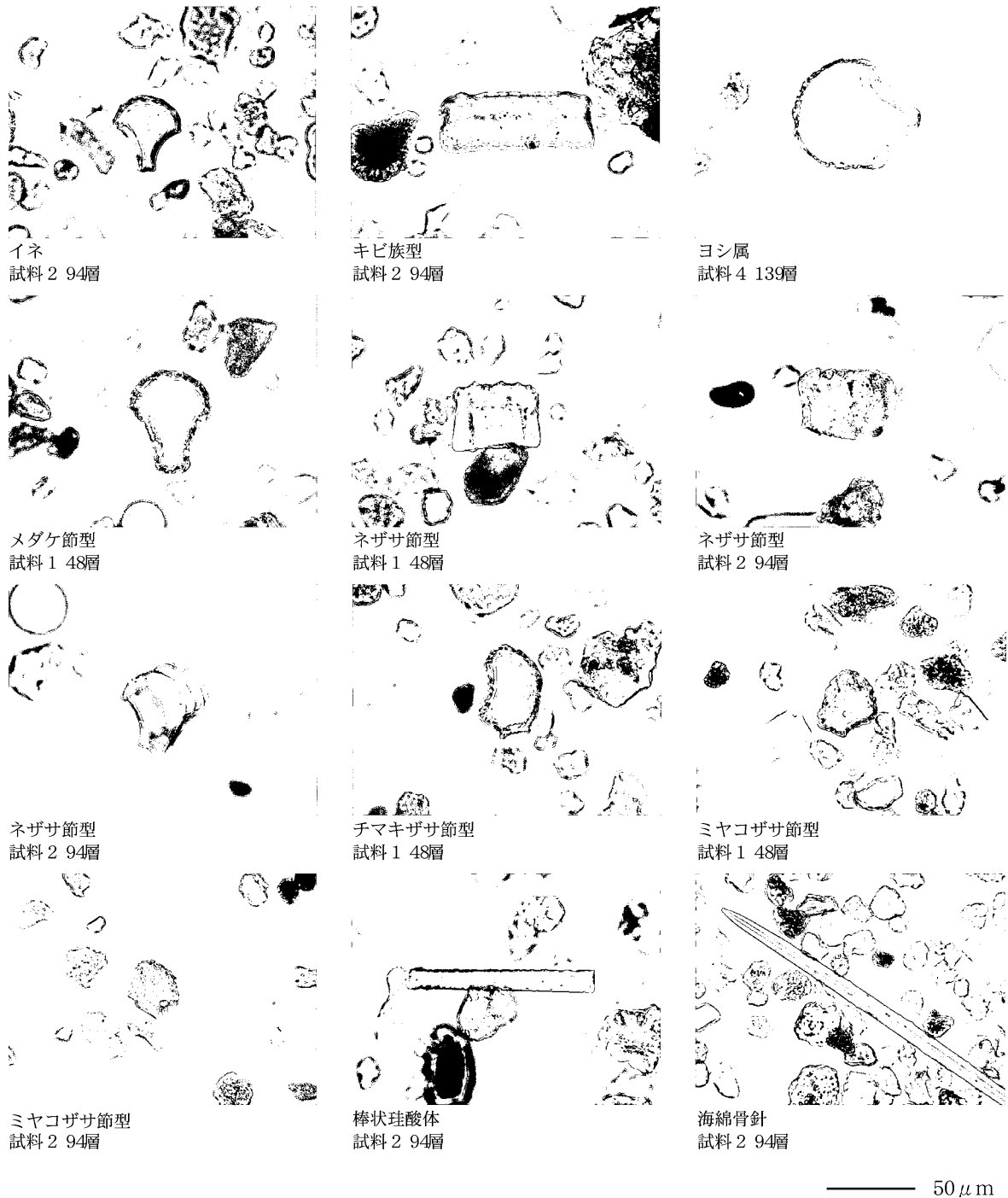
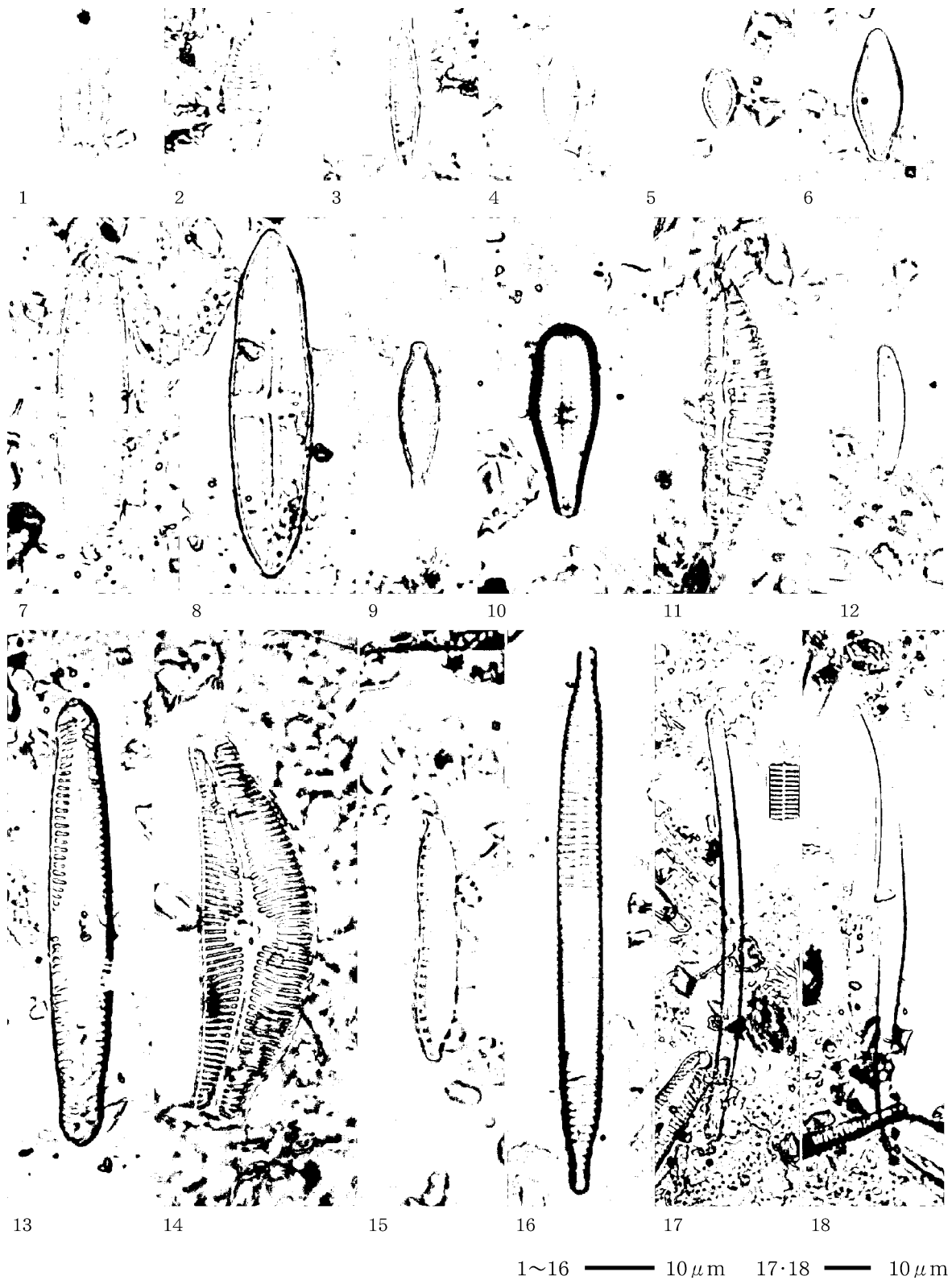


図 36 植物珪酸体（プラント・オパール）顕微鏡写真



— 10 μm

図 37 花粉顕微鏡写真



1. *Achnanthes hungarica* 2. *Achnanthes lanceolata* 3. *Fragilaria capucina* 4. *Fragilaria construens* v. *venter*  
 5. *Fragilaria elliptica* 6. *Navicula confervacea* 7. *Pinnularia microstauron* 8. *Navicula mobiliensis* v. *minor*  
 9. *Gomphonema parvulum* 10. *Gomphonema truncatum* 11. *Cymbella silesiaca* 12. *Eunotia minor* 13. *Pinnularia gibba*  
 14. *Cymbella tumida* 15. *Hantzschia amphioxys* 16. *Synedra ulna* 17. *Eunotia bilunaris* 18. *Gyrosigma* spp.

图 38 珩藻頭微鏡写真



付表1 SD100下層出土縄文土器一覧表

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	胎土色調	備考
1		縄文土器 深鉢				2.5Y3/1 黒褐色	口縁下端に凸帯
2		縄文土器 深鉢				2.5Y3/1 黒褐色	口縁下端に凸帯
3		縄文土器 深鉢				5YR5/4 にぶい赤褐色	口縁下端に凸帯
4		縄文土器 深鉢				10YR3/1 黒褐色	口縁下端に凸帯
5		縄文土器 浅鉢				2.5Y2/1 黒色	口縁下端に凸帯
6		縄文土器 深鉢				5Y3/1 オリーブ黒色	口縁下端に凸帯
7		縄文土器 深鉢				10YR1.7/1 黒色	口縁下端に凸帯
8		縄文土器 浅鉢				10YR2/1 黒色	口縁下端に凸帯 体部下端はケズリ
9		縄文土器 深鉢				10YR1.7/1 黒色	口縁下端に刻み目凸帯
10		縄文土器 深鉢				10YR5/3 にぶい黄褐色	口縁下端に刻み目凸帯
11		縄文土器 深鉢				2.5Y2/1 黒色	口縁端部に刻み目 下端に刻み目凸帯
12		縄文土器 深鉢				10YR5/2 灰黄褐色	口縁端部に刻み目 下端に刻み目凸帯
13		縄文土器 深鉢				10YR3/1 黒褐色	口縁端部に刻み目 下端に刻み目凸帯
14		縄文土器 深鉢				2.5Y3/1 黒褐色	口縁端部に刻み目 下端に刻み目凸帯
15		縄文土器 深鉢				10YR5/1 褐灰色	口縁端部に刻み目 下端に刻み目凸帯
16		縄文土器 深鉢				5Y2/1 黒色	口縁端部に刻み目 下端に刻み目凸帯
17		縄文土器 深鉢				5Y3/1 オリーブ黒色	口縁端部に刻み目 下端に刻み目凸帯
18		縄文土器 深鉢				2.5Y4/2 暗灰黄色	口縁端部に刻み目 下端に刻み目凸帯
19		縄文土器 深鉢				10YR3/1 黒褐色	口縁端部に刻み目 下端に刻み目凸帯
20		縄文土器 深鉢				10YR2/1 黒色	口縁部下方に半裁竹管文の刻み目

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	胎土色調	備考
21		縄文土器 深鉢				10YR1.7/1 黒色	口縁端部に刻み目
22		縄文土器 浅鉢				10YR3/1 黒褐色	白色粒含む やや粗粒
23		縄文土器 深鉢				10YR4/1 褐灰色	口縁部沈線の上方はミガキ 下方は縄文
24		縄文土器 浅鉢				2.5Y4/1 黄灰色	口縁部内面に沈線 外面に凸帯
25		縄文土器 深鉢				2.5Y4/1 黄灰色	口縁端部に刻み目 下方に刻み目凸帯
26		縄文土器 深鉢				2.5Y3/2 黒褐色	口縁内面に凸帯痕 内外面ミガキ
27		縄文土器 深鉢	27.1			10YR3/2 黒褐色	口縁端部に刻み目 下方に刻み目凸帯 体部はケズリ
28		縄文土器 深鉢	19.2			10YR5/2 灰黄褐色	口縁下端に凸帯 口縁部横ミガキ 体部は縄文?
29		縄文土器 深鉢	15.2			5YR5/2 灰褐色	口縁端部に刻み目 体部はケズリ
30		縄文土器 深鉢				10YR5/2 灰黄褐色	白色粒含む 粗粒 内面に炭化物付着
31		縄文土器 深鉢			2.6	2.5Y7/2~ 10YR4/1	底部に粘土を貼り付け平坦面を作る
32		縄文土器 深鉢			7.6	10YR6/1 褐灰色	底部に粘土を貼り付け平坦面を作る

付表2 SD100上層出土弥生土器一覧表

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	胎土色調	備考
33		弥生土器 壺				7.5YR5/1 暗灰色	頸部に凸帯
34		弥生土器 壺				10YR8/1 灰白色	肩部に横方向の櫛描き文
35		弥生土器 壺			6.2	10YR8/2 灰白色	
36		弥生土器 壺			5.6	7.5YR6/2 灰褐色	
37		弥生土器 壺			7.8	5YR7/4 にぶい橙色	
38		弥生土器 壺			8.1	5YR6/4 にぶい橙色	

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	胎土色調	備考
39		弥生土器 高杯	16.4			7.5YR5/3 にぶい褐色	
40		弥生土器 高杯			7.2	7.5YR6/4 にぶい橙色	

付表3 SD108出土土器一覧表

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	胎土色調	備考
41		土師器 皿AⅡ	16.2	2.1		7.5YR6/4 にぶい橙色	10%以下の小片
42		土師器 皿AⅡ	16.4	(2.5)		7.5YR7/3 にぶい橙色	10%以下の小片
43		土師器 皿AⅡ	16.6			2.5YR6/7 橙色	30%残存
44		土師器 皿AⅡ	17.1	(2.5)	3.8	7.5YR7/3 にぶい橙色	15%残存
45		土師器 皿AⅡ	17.4	(2.0)		7.5YR7/6 橙色	10%残存
46		土師器 皿AⅡ	17.6	2.2		10YR7/3 にぶい黄橙色	15%残存
47		土師器 皿AⅠ	19.4	2.1		7.5YR7/6 橙色	20%残存
48		土師器 杯X	12.2	2.9		7.5YR7/7 黄橙色	25%残存 ロクロ成形
49		土師器 椀A	14.1	3.7		5YR6.5/6 橙色	20%残存
50		土師器 杯A	18.0	(3.2)		7.5YR7/3 にぶい橙色	15%残存
51		土師器 杯A	19.0	(3.4)		7.5YR7/4 にぶい橙色	10%以下の小片
52		土師器 杯A	18.8	(3.3)		10YR6/2 灰黄褐色	10%以下の小片
53		土師器 杯蓋	26.4			7.5YR7/4 にぶい橙色	20%残存
54		土師器 杯B?	17.2			7.5YR7/3 にぶい橙色	口縁部20%残存
55		土師器 杯B?	17.8			7.5YR7/6 橙色	口縁部10%の小片
56		土師器 杯B			11.1	10YR8/2 灰白色	底部15%残存

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
57		土師器 杯B			15.2	5YR7/5 にぶい橙色	底部10%以下の小片
58		土師器 皿B				7.5YR6/3 にぶい褐色	残長5cm以下の小片
59		土師器 甕	15.3			5YR5/3 にぶい赤褐色	15%残存
60		土師器 甕				7.5YR6/4 にぶい橙色	口縁部残長5cm以下の小片
61		土師器 甕	20.6			10YR7/3 にぶい黄橙色	20%残存
62		土師器 甕	31.5			10YR7/3 にぶい黄橙色	25%残存
63		土師器 甕	25.4			7.5YR7/4 にぶい橙色	20%残存
64		須恵器 杯蓋	18.8			N7/0 灰白色	10%残存
65		須恵器 杯蓋	20.5			N7/PB 灰白色	15%残存
66		須恵器 杯蓋	20.8			N7/PB 灰白色	5%の小片 転用硯
67		須恵器 皿A	15.2	1.5	12.8	N7/PB 灰白色	15%残存
68		須恵器 皿B	21.2	2.5	17.1	7.5Y8/1 灰白色	25%残存
69		須恵器 杯B	11.4	4.3	8.4	5Y6/1 灰色	底部完存 口縁部20%残存
70		須恵器 杯B	13.8	5.3	9.2	N7/0 灰白色	10%残存
71		須恵器 杯B	20.8			5B5/1 青灰色	15%残存
72		須恵器 杯A	13.4	3.6	8.9	5PB7/1 明青灰色	80%残存
73		須恵器 杯A	13.6	3.6	9.0	2.5Y7.5/1 灰白色	15%残存
74		須恵器 壺	4.7			N7/0 灰白色	口縁部20%残存
75		須恵器 壺			5.5	器表5B4/1 断面2.5YR6/3	底部完存
76		須恵器 壺			4.4	器表5PB6/1 断面5Y6/1	底部完存

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
77		須恵器壺			15.2	N5/0 灰色	底部完存 体部50%残存
78		須恵器甕	13.8			7.5YR7/4 にぶい橙色	20%残存
79		須恵器甕	15.0			10YR7/1 灰白色	25%残存
80		須恵器甕	19.4			器表5B4/1 断面7.5R6/2	口縁部25%残存
81		須恵器短頸壺	12.8			N7/PB 灰白色	口縁部20% 肩部50%残存
82		須恵器鉢	17.8			5B5/1 青灰色	50%残存
83		須恵器鉢	36.3			5B5/1 青灰色	10%残存
84		土馬				10YR7/3 にぶい黄橙色	

付表4 SK83出土土器一覧表










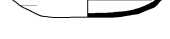

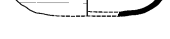
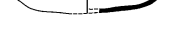

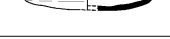


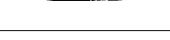

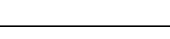
No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
85		緑釉陶器唾壺			8.0	断面2.5Y8/1 灰白色 釉5Y8/3淡黄色	体部完存 軟質
86		緑釉陶器碗			8.2	断面2.5Y8/2 灰白色	底部完存 全釉 全面ミガキ 釉は殆ど剥離
87		須恵器鉢	28.8			N7/0 灰白色	15%残存




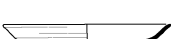

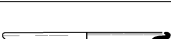



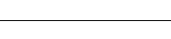
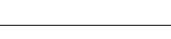


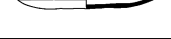




付表5 SK88出土土器一覧表

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
88		白色土器短頸壺蓋	14.2	4.8		2.5Y8/1 灰白色	45%残存
89		白色土器短頸壺	11.0	21.6	17.6	2.5Y8/1 灰白色	80%残存 胴部最大径27.9







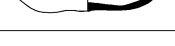
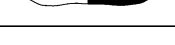


付表6 SG105出土土器一覽表

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
90		土師器 皿A	10.7	1.5		2.5YR8/2 明赤灰色	SG105C 20%残存
91		土師器 皿A	11.0	1.5		2.5Y8/3 淡黄色	SG105C 75%残存
92		土師器 皿A	11.2	1.3		10YR8/3 浅黄橙色	SG105C 60%残存
93		土師器 皿Ac	13.6	1.0		7.5YR8/3 浅黄橙色	SG105C 60%残存
94		土師器 皿N	10.8	2.0		10YR8/3 浅黄橙色	SG105C 25%残存
95		土師器 皿N	10.8	2.5		N3/0 暗灰色	SG105C 30%残存
96		土師器 皿N	11.0	1.9		2.5Y8/3 淡黄色	SG105C 70%残存
97		土師器 皿N	11.1	2.3		2.5Y8/3 淡黄色	SG105C 80%残存
98		土師器 皿N	11.3	2.2		2.5Y8/3 淡黄色	SG105C 完存
99		土師器 皿N	11.3	2.0		2.5Y8/2 灰白色	SG105C 70%残存
100		土師器 皿N	11.5	2.1		2.5Y8/2 灰白色	SG105C 完存
101		土師器 杯N	14.4	2.8		7.5Y8/1 灰白色	SG105C 45%残存
102		土師器 杯N	14.6	2.6		2.5Y8/2 灰白色	SG105C 30%残存
103		土師器 皿A	11.0	1.2		2.5Y8/2 灰白色	SG105B 90%残存
104		土師器 皿A	11.1	1.6		2.5Y8/2 灰白色	SG105B 30%残存
105		土師器 皿A	11.2	1.2		2.5Y8/2 灰白色	SG105B 95%残存
106		土師器 皿A	11.4	1.4		2.5Y8/2 灰白色	SG105B 20%残存
107		土師器 皿N	13.1	2.2		2.5Y8/3 淡黄色	SG105B 20%残存
108		緑釉陶器 段皿	13.2	(2.1)	6.1	断面2.5Y8/1 釉5Y5/3 灰オリーブ色	SG105B 20%残存
109		土師器 皿A	11.0	1.3		2.5Y8/1 灰白色	SG105A 55%残存

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
110		土師器 皿A	11.5	1.2		7.5YR8/2 灰白色	SG105A 60%残存
111		土師器 皿N	12.6	2.4		5YR6/6 橙色	SG105A 30%残存
112		土師器 皿N	14.6	2.1		2.5Y8/2 灰白色	SG105A 15%残存
113		土師器 皿N	14.6	1.9		2.5Y8/3 淡黄色	SG105A 10%以下の小片
114		白色土器 皿			6.0	2.5Y8/1 灰白色	SG105A 底部完存
115		土師器 皿A	10.8	1.8		7.5YR7/4 にぶい橙色	池底部 20%残存
116		土師器 皿A	11.2	1.7		7.5YR8/3 浅黄橙色	池底部 25%残存
117		土師器 皿A	10.9	1.9		2.5Y8/2 灰白色	池底部 75%残存
118		土師器 皿A	11.0	1.7		10YR8/2 灰白色	池底部 90%残存
119		土師器 皿A	11.1	1.4		10YR8/3 浅黄橙色	池底部 70%残存
120		土師器 皿A	11.2	1.1		10YR8/2 灰白色	池底部 40%残存
121		土師器 皿A	13.2	1.6		10YR8/3 浅黄橙色	池底部 50%残存
122		土師器 皿N	13.8	2.0		10YR8/3 浅黄橙色	池底部 10%残存
123		土師器 皿N	16.4	2.9		10YR8/2 灰白色	池底部 95%残存
124		黒色土器 碗	15.2	5.3	7.8	器表黒色 断面2.5Y8/2 灰白色	池底部 70%残存
125		緑釉陶器 段皿	11.9	2.5	6.6	断面10YR5/1 褐灰色	池底部 口縁部10% 底部30%残存
126		山茶碗	11.1	2.4	6.0	N8/0 灰白色	池底部 口縁部10% 底部20%残存 胎土緻密
127		山茶碗			7.6	N7/PB 灰白色	池底部 50%残存

付表7 SK16出土土器一覧表





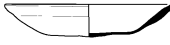


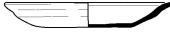



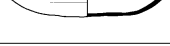
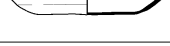




No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
128		土師器 皿N	7.9	1.4		7.5YR8/3 浅黄橙色	60%残存
129		土師器 皿N	8.4	1.3		7.5YR8/4 浅黄橙色	完存
130		土師器 皿N	8.4	1.4		7.5YR7/3 にぶい橙色	90%残存
131		土師器 皿N	8.4	1.4		7.5YR7/4 にぶい橙色	70%残存
132		土師器 皿N	8.4	1.2		7.5YR7/4 にぶい橙色	80%残存
133		土師器 皿N	8.5	1.3		7.5YR7/5 橙色	90%残存
134		土師器 皿Ac	7.8	1.1		7.5YR7/4 にぶい橙色	40%残存
135		土師器 皿Ac	8.1	1.3		10YR7/3 にぶい黄橙色	60%残存
136		土師器 皿Ac	8.2	1.3		7.5YR7/3 にぶい橙色	95%残存
137		土師器 皿Ac	8.2	1.0		7.5YR8/4 浅黄橙色	30%残存
138		土師器 皿Ac	8.4	1.1		7.5YR7/3 にぶい橙色	30%残存
139		土師器 皿N	7.5	1.9		10YR8/2 灰白色	95%残存
140		土師器 皿N	7.6	1.8		7.5YR7/4 にぶい橙色	完存
141		土師器 皿N	7.6	1.8		7.5YR7/4 にぶい橙色	完存
142		土師器 皿N	7.6	1.8		10YR7/4 にぶい黄橙色	完存
143		土師器 皿N	7.6	2.1		7.5YR7/3 にぶい橙色	70%残存
144		土師器 皿N	7.6	2.0		7.5YR7/5 橙色	90%残存
145		土師器 皿N	7.6	2.1		7.5YR7/4 にぶい橙色	80%残存
146		土師器 皿N	7.6	2.1		10YR7/4 にぶい黄橙色	完存
147		土師器 皿N	7.8	2.2		10YR7/3 にぶい黄橙色	完存

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
148		土師器 皿N	7.8	1.8		10YR7/4 にぶい黄橙色	95%残存
149		土師器 皿N	7.8	2.1		10YR7/3 にぶい黄橙色	完存
150		土師器 皿N	7.8	1.8		10YR8/3 浅黄橙色	95%残存
151		土師器 皿N	7.9	2.2		7.5YR7/4 にぶい橙色	90%残存
152		土師器 皿N	8.0	2.0		10YR8/3 浅黄橙色	95%残存
153		土師器 皿N	8.1	2.0		10YR8/3 浅黄橙色	95%残存
154		土師器 皿N	8.1	2.1		7.5YR7/4 にぶい橙色	90%残存
155		土師器 皿N	8.1	2.2		7.5YR7/4 にぶい橙色	85%残存
156		土師器 皿N	8.2	2.2		10YR8/4 浅黄橙色	完存
157		土師器 皿N	12.4	2.4		10YR7/3 にぶい黄橙色	90%残存
158		土師器 皿N	12.2	2.5		10YR7/3 にぶい黄橙色	60%残存
159		土師器 皿N	12.2	1.9		7.5YR7/3 にぶい橙色	40%残存
160		土師器 皿S	6.7	2.1		7.5YR8/2 灰白色	完存
161		土師器 皿S	6.8	1.9		2.5Y8/2 灰白色	完存
162		土師器 皿S	7.0	1.8		7.5YR8/1 灰白色	60%残存
163		土師器 皿S	6.9	1.9		10YR8/1 灰白色	完存
164		土師器 皿S	7.1	1.8		10YR8/2 灰白色	完存
165		土師器 皿S	7.2	1.9		10YR8/2 灰白色	60%残存
166		土師器 皿S	7.2	1.8		10YR8/2 灰白色	完存
167		土師器 皿S	7.3	2.0		10YR8/2 灰白色	完存

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
168		土師器 皿S	7.3	1.8		10YR8/1 灰白色	完存
169		土師器 皿S	7.3	1.9		10YR8/1 灰白色	95%残存
170		土師器 皿S	7.4	1.8		10YR8/2 灰白色	完存
171		土師器 皿S	7.4	2.1		7.5YR8/2 灰白色	完存
172		土師器 皿S	7.4	1.9		10YR8/2 灰白色	完存
173		土師器 皿S	7.4	1.9		10YR8/3 浅黄橙色	95%残存
174		土師器 皿S	7.4	2.1		10YR8/2 灰白色	完存
175		土師器 皿S	7.4	1.7		10YR8/2 灰白色	完存
176		土師器 皿S	7.4	1.8		10YR8/3 浅黄橙色	95%残存
177		土師器 皿S	7.6	1.9		10YR8/1 灰白色	完存
178		土師器 皿S	7.9	2.2		2.5Y8/2 灰白色	完存
179		土師器 皿S	8.0	2.0		10YR8/2 灰白色	95%残存
180		土師器 皿S	8.2	1.7		10YR8/2 灰白色	60%残存
181		土師器 皿Sc	5.1	0.8		10YR8/2 灰白色	95%残存
182		土師器 皿S	9.4	1.7		10YR8/1 灰白色	15%残存
183		土師器 皿S	12.6	3.0		2.5Y8/2 灰白色	40%残存
184		土師器 皿S	13.0	3.0		2.5Y8/2 灰白色	30%残存
185		土師器 皿S	13.5	3.0		10YR8/2 灰白色	25%残存
186		土師器 皿S	13.8	3.1		10YR8/1.5 灰白色	90%残存
187		須恵器 鉢	28.9			5Y7/1灰白色 断面2.5Y7/1	口縁部10cm程残存

付表8 SE07出土土器一覧表

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
188		土師器 皿N	7.4	1.8		7.5YR8/4 浅黄橙色	25%残存
189		土師器 皿N	7.6	1.6		5YR8/4 淡橙色	30%残存
190		土師器 皿N	7.8	1.6		10YR7/2 にぶい黄橙色	55%残存
191		土師器 皿X	8.2	2.3	3.8	10YR8/2 灰白色	50%残存 ロクロ成形成底部糸切り
192		土師器 皿Sh	6.4	1.4		5YR7/4 にぶい橙色	60%残存
193		土師器 皿Sh	6.4	1.4		7.5YR8/6 浅黄橙色	完存
194		土師器 皿Sh	6.9	1.6		5YR7.5/4 にぶい橙色	80%残存
195		土師器 皿Sh	7.0	2.0		5YR8/4 淡橙色	60%残存
196		土師器 皿Sh	7.2	1.7		7.5YR8/6 浅黄橙色	95%残存
197		土師器 皿Sb	8.4	1.5		5YR7.5/4 にぶい橙色	60%残存
198		土師器 皿Sb	8.6	1.6		7.5YR7/3 にぶい橙色	60%残存 灯明皿
199		土師器 皿Sb	8.6	1.8		7.5YR8/6 浅黄橙色	完存
200		土師器 皿Sb	8.7	1.9		5YR8/4 淡橙色	90%残存
201		土師器 皿S	9.8	2.0		5YR8/4 淡橙色	50%残存
202		土師器 皿S	9.9	2.2		7.5YR8/3 浅黄橙色	95%残存 灯明皿
203		土師器 皿S	10.0	2.0		10YR8/2 灰白色	完存 灯明皿
204		土師器 皿S	10.4	2.3		5YR7/5 橙色	完存
205		土師器 皿S	10.4	2.0		7.5YR8/4 浅黄橙色	50%残存
206		土師器 皿S	10.8	2.1		7.5YR8/5 浅黄橙色	80%残存
207		土師器 皿S	11.2	2.1		7.5YR8/6 浅黄橙色	70%残存 灯明皿

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
208		土師器 皿S	11.6	2.1		7.5YR8/5 浅黄橙色	90%残存
209		土師器 皿S	11.6	2.3		7.5YR8/3 浅黄橙色	90%残存
210		土師器 皿S	12.0	2.3		7.5YR8/3 浅黄橙色	70%残存
211		土師器 皿S	12.0	2.4		7.5YR7/6 橙色	95%残存
212		土師器 皿S	14.2	2.8		7.5YR8/4 浅黄橙色	75%残存
213		土師器 皿S	14.2	2.2		7.5YR8/6 浅黄橙色	50%残存
214		土師器 皿S	14.2	2.8		5YR8/4 淡橙色	75%残存
215		土師器 皿S	14.5	2.2		7.5YR8/6 浅黄橙色	80%残存
216		土師器 皿S	15.0	2.6		5YR7.5/4 にぶい橙色	45%残存
217		土師器 皿S	16.2	2.9		5YR8/4 淡橙色	40%残存
218		土師器 皿S	16.2	2.6		5YR7/5 橙色	50%残存
219		土師器 皿S	16.8	2.5		5YR8/5 淡橙色	55%残存
220		土師器 皿S	17.2	2.3		5YR8/4 淡橙色	75%残存
221		土師器 皿S	19.8	2.4		10YR8/2 灰白色	10%の小片 内外面共に金箔が残る
222		瓦器 羽釜	25.7			器表黒色 断面2.5Y8/1 灰白色	15%残存
223		瀬戸 灰釉鉢				断面2.5Y8/1 釉5Y6/3 オリーブ黄色	3cmの小片
224		備前 播鉢	28.8	11.2	14.0	5YR8/5 橙色	完存

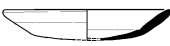
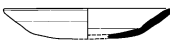



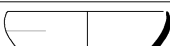


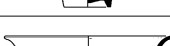



付表9 SK34出土土器一覧表

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
225		土師器 皿Sb	10.1	2.2		10YR8/4 浅黄橙色	65%残存
226		土師器 皿Sb	10.2	1.9		10YR7/3 にぶい黄橙色	50%残存 灯明皿
227		唐津藁灰釉 碗	10.2			断面2.5Y6/1 釉7.5YR8/1 灰白色	口縁部20%残存
228		唐津灰釉 碗	11.0			10YR7/2 にぶい黄橙色	10%以下の小片
229		美濃 天目碗	10.5	6.6	4.7	断面10YR8/2 釉10YR3/3 暗褐色	95%残存
230		美濃灰釉 小壺	3.4	2.9	4.0	2.5Y7/1灰白色 釉2.5Y6/4 にぶい黄色	完存
231		美濃長石釉 菊皿	12.2	2.8	6.5	断面5Y8/1 釉5Y7/2灰白色	30%残存
232		志野 鉢	13.8	3.4	6.5	断面7.5YR8/1 釉7.5YR7/2 明褐灰色	40%残存
233		黄瀬戸 鉢	23.6	6.8	12.1	断面10YR8/3 釉2.5Y7/4 浅黄色	20%残存
234		信楽 播鉢	26.4	12.3	13.6	5YR6/8 橙色	35%残存

付表10 SE11出土土器一覧表

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
235		土師器 皿N	5.5	1.3		10YR7/3 にぶい黄橙色	完存
236		土師器 皿N	5.6	1.3		7.5YR7/3 にぶい橙色	完存
237		土師器 皿N	5.6	1.2		10YR7/4 にぶい黄橙色	完存
238		土師器 皿N	5.8	1.3		10YR8/3 浅黄橙色	完存
239		土師器 皿Sb	9.4	2.2		7.5YR5/1 褐灰色	85%残存
240		土師器 皿Sb	9.6	2.3		10YR5/1 褐灰色	85%残存
241		土師器 皿Sb	9.7	2.0		7.5YR8/4 浅黄橙色	完存
242		土師器 皿S	11.7	2.2		10YR7/2 にぶい黄橙色	70%残存 灯明皿



No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
243		土師器 皿S	12.1	2.2		7.5YR7/4 にぶい橙色	35%残存 灯明皿
244		土師器 皿S	12.2	2.2		7.5YR7/3 にぶい橙色	90%残存 灯明皿
245		土師器 皿S	12.2	2.3		7.5YR7/4 にぶい橙色	40%残存 灯明皿
246		土師器 皿S	12.3	2.1		7.5YR8/6 浅黄橙色	55%残存 灯明皿
247		土師器 皿S	20.4			7.5YR7/4 にぶい橙色	10%以下の小片
248		土師器 鉢	12.3	5.0		10YR8/2 灰白色	20%残存 内面に炭化物付着
249		京焼 椀	9.0	6.5	4.7	10YR7/3 にぶい黄橙色 断面N6/0灰色	60%残存
250		唐津 椀	12.7	6.7	4.4	器表2.5YR4/3 釉7.5YR3/2 黒褐色	95%残存
251		伊万里染付 椀	10.4				20%残存
252		伊万里染付 椀	13.8	4.5	6.2		底部完存 口縁部10%残存
253		伊万里青磁 香炉	13.4	7.0	5.2	5G7/1 明緑灰色	底部完存 口縁部15%残存
254		丹波 播鉢	32.0	14.5		5YR3/4 暗赤褐色	底部65% 口縁部40%残存



# 版 图



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうにじょうにぼうじゅつちよう (かやいん) あと							
書名	平安京左京二条二坊十町 (高陽院) 跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2005-7							
編集者名	平尾政幸・山口 真							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2005年11月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょう 平安京左京 にじょうにぼうじゅつちよう 二条二坊十町 (かやいん) あと (高陽院) 跡	きょうとしなかがきょうく 京都市中京区 たけやまちどおりあぶらのこうじ 竹屋町通油小路 にしいるにしたけやまち 西入西竹屋町11	26100		35度 00分 16秒	135度 45分 21秒	2005年7月 6日～2005 年9月28日	350㎡	住宅建設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京左京 二条二坊十町 (高陽院) 跡	都城跡	縄文時代 ～弥生時代	川、湿地跡	縄文土器、弥生土器、 石製品、木製品、植物 種実				
		平安時代	池、道路、溝、 土壇	土師器、須恵器、白色 土器、緑釉陶器、山茶 椀、輸入陶磁器、瓦、 土製品、石製品、礎石、 銭貨				
		鎌倉時代 ～室町時代	井戸、土壇	土師器、瓦器、白色土 器、須恵器、焼締陶器、 施釉陶器、輸入陶磁器、 瓦、銭貨				
		江戸時代	井戸、土壇	土師器、瓦器、国産陶 磁器、輸入陶磁器、瓦、 金属製品、木製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-7  
平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡

発行日 2005年11月30日

編集 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
発行  
住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1  
〒 602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地  
〒 604-0093 TEL 075-256-0961